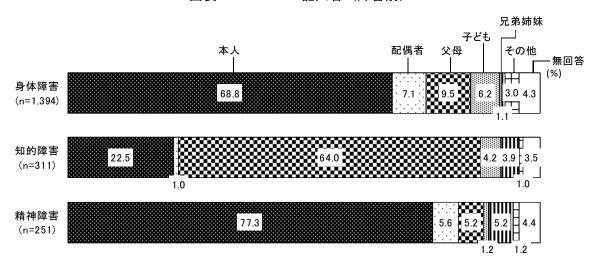
第1章 障害のある人の調査

1 基本属性

(1) 記入者(F1)

記入者は、身体障害者は、「本人 (68.8%)」が最も多く、「父母 (9.5%)」が続いている。知的障害者は、「父母 (64.0%)」が最も多く、「本人」は22.5%である。 精神障害者は、「本人」が77.3%である。(図表1-1-1)

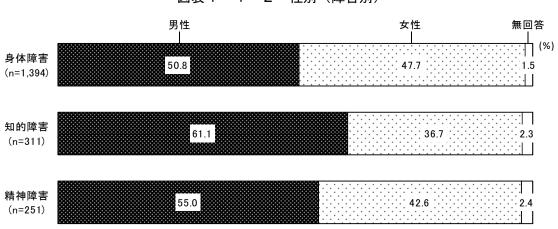


図表 1-1-1 記入者(障害別)

(2) 性別(F2-1)

あて名本人の性別は、身体障害者は、「男性」が50.8%、「女性」が47.7%である。 知的障害者は、「男性」が61.1%を占めている。

精神障害者は、「男性」が55.0%、「女性」が42.6%である。(図表1-1-2)



図表 1-1-2 性別(障害別)

(3)年齢(F2-2)

あて名本人の年齢は、身体障害者は、「65 歳以上(58.3%)」が50%を超えている。 知的障害者は、「学齢期(小学校入学~中学校卒業)(23.8%)」が最も多く、17 歳以下が34.4%である。

精神障害者は、17歳以下がおらず、「50~54歳」と「65歳以上」が13.5%で同率で最も多くなっている。(図表1-1-3)

														(%)
	(0~5歳)乳幼児期	~ 中学校卒業)学齢期(小学校入学	歳 中学校卒業後~17	1 8 2 4 歳	25529歳	3 0 3 4 歳	3 5 3 9 歳	4 0 4 4 歳	4 5 4 9 歳	5 0 5 4 歳	5 5 5 9 歳	6 0 6 4 歳	6 5 歳以上	無回答
身体障害 (n=1,394)	1.2	3.4	1.1	2.2	1.6	1.6	2.1	3.9	4.6	3.8	5.8	8.5	58.3	1.7
知的障害(n= 311)	3.5	23.8	7.1	18.3	7.1	8.4	7.7	9.0	5.1	3.2	2.3	1.6	1.6	1.3
精神障害(n= 251)	0.0	0.0	0.0	1.6	4.8	7.6	12.0	11.2	11.2	13.5	12.0	11.6	13.5	1.2

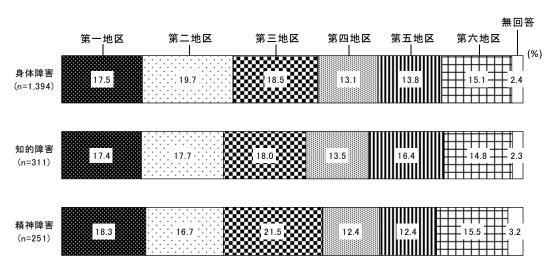
図表1-1-3 年齢(障害別)

(4)居住地域(F3)

居住地域は、身体障害者は「第二地区 (19.7%)」、「第三地区 (18.5%)」、「第一地区 (17.5%)」の順に多くなっている。

知的障害者は、「第三地区 (18.0%)」、「第二地区 (17.7%)」、「第一地区 (17.4%)」の順に多くなっている。

精神障害者は、「第三地区 (21.5%)」、「第一地区 (18.3%)」、「第二地区 (16.7%)」の順に多くなっている。(図表 1-1-4)



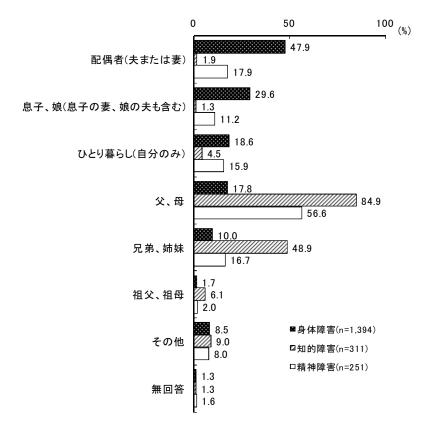
図表 1-1-4 居住地域 (障害別)

(5) 同居者(F4)

同居者は、身体障害者は、「配偶者(夫または妻)(47.9%)」が最も多く、「息子、娘(息子の妻、娘の夫も含む)(29.6%)」が続いている。

知的障害者は、「父、母(84.9%)」が80%を超えて最も多く、「兄弟、姉妹(48.9%)」が 続いている。

精神障害者は、「父、母 (56.6%)」が 50%を超えて最も多く、「配偶者 (56.6%)」が (17.9%)」、「兄弟、姉妹 (16.7%)」が続いている。 (図表 1 - 1 - 5)



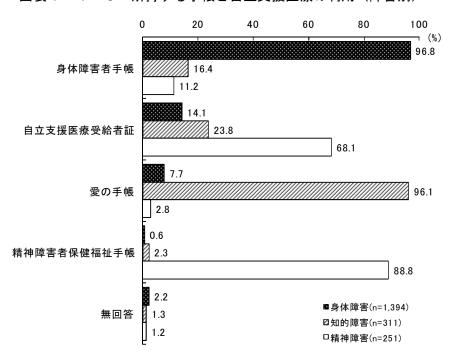
図表 1-1-5 同居者 (障害別:複数回答)

(6) 所持する手帳と自立支援医療の利用 (F5)

所持する手帳と自立支援医療の利用について、身体障害者は、「身体障害者手帳」が 96.8%、「自立支援医療受給者証」が 14.1%、「愛の手帳」が 7.7%である。

知的障害者は、「愛の手帳」が 96.1%、「自立支援医療受給者証」が 23.8%、「身体障害者 手帳」が 16.4%である。

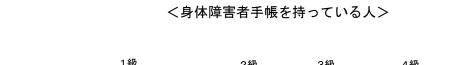
精神障害者は、「精神障害者保健福祉手帳」が 88.8%、「自立支援医療受給者証」が 68.1%、「身体障害者手帳」が 11.2%である。(図表 1-1-6)



図表 1-1-6 所持する手帳と自立支援医療の利用 (障害別)

(7) 身体障害者手帳の程度(F5)

身体障害者に、身体障害者手帳の程度をたずねたところ、「1級 (34.9%)」が最も多く、「4級 (21.2%)」、「2級 (18.1%)」が続いている。(図表1-1-7)



 身体障害 (n=1,349)
 34.9

 18.1
 15.4

 200
 18.1

 15.4
 21.2

 4.4
 4.8

 1.1

図表 1-1-7 身体障害者手帳の程度(身体障害者)

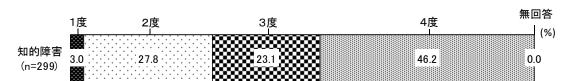
(8) 身体障害者手帳に記載された項目 (F6)

身体障害者手帳を持っている人に、身体障害者手帳に記載された項目をたずねたところ、 身体障害者は、「肢体不自由(52.8%)」が最も多く、「内部障害(心臓・肝臓・腎臓の障害) (31.9%)」が続いている。(図表 1 - 1 - 8)

図表 1-1-8 身体障害者手帳に記載された項目(身体障害者:複数回答)

(9)愛の手帳の程度(F5)

知的障害者に、愛の手帳の程度をたずねたところ、「4 度 (46.2%)」が最も多く、「2 度 (27.8%)」が続いている。(図表 1-1-9)

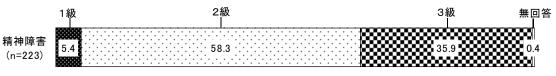


図表 1-1-9 愛の手帳の程度(知的障害者) <愛の手帳を持っている人>

(10) 精神障害者保健福祉手帳の程度 (F5)

精神障害者に、精神障害者保健福祉手帳の程度をたずねたところ、「2級(58.3%)」が最も多く、「3級(35.9%)」が続いている。(図表1-1-10)

図表 1 - 1 - 10 精神障害者保健福祉手帳の程度(精神障害者) <精神障害者保健福祉手帳を持っている人>



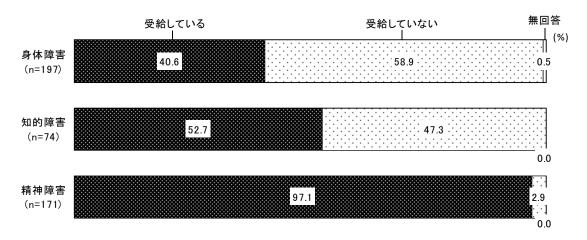
(11) 自立支援医療の需給の有無 (F5)

自立支援医療受給者証を持っていると回答した人に、受給の有無をたずねたところ、身体障害者は、「受給している」が 40.6%となっている。

知的障害者は、「受給している」が52.7%となっている。

精神障害者は、「受給している」が97.1%となっている。(図表1-1-11)

図表 1 - 1 - 11 自立支援医療の需給の有無 (障害別) <自立支援医療受給者証を持っている人>



(12) 障害が生じた時期 (F7)

主な障害が生じた時期は、身体障害者は、「60歳以上(31.5%)」が最も多く、「50~59歳 ころ(17.9%)」が続いている。

知的障害者は、「乳幼児期(35.7%)」、「出生時(35.0%)」がそれぞれ30%を超えている。 精神障害者は、「 $18\sim29$ 歳ころ(38.2%)」が最も多く、「 $30\sim39$ 歳ころ(11.6%)」、「中学校卒業後 ~17 歳ころ(8.4%)」が続いている。(図表1-1-12)

											(%)
	(出生前を含む)出生時	歳)	~ 中学校卒業)学齢期(小学校入学	歳ころ中学校卒業後~17	18629歳ころ	30~39歳ころ	40~49歳ころ	50~59歳ころ	60歳以上	わからない	無回答
身体障害 (n=1,394)	12.2	8.6	3.3	1.0	5.5	6.6	9.9	17.9	31.5	1.1	2.5
知的障害(n= 311)	35.0	35.7	11.9	1.0	1.0	0.3	0.3	0.3	0.0	3.2	11.3
精神障害(n= 251)	1.2	1.2	4.4	8.4	38.2	11.6	8.0	6.8	2.4	2.8	15.1

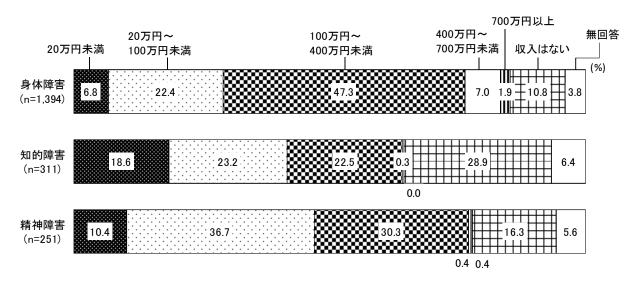
図表 1-1-12 障害が生じた時期(障害別)

(13) 年収(F8)

年金、手当、生活保護費、親族からの援助もすべて含んだ年収をたずねたところ、身体障害者は「100万円~400万円未満(47.3%)」が最も多く、「20万円~100万円未満(22.4%)」、「収入はない(10.8%)」が続いている。18歳以上では、「収入はない(7.8%)」が10%以下となっている。

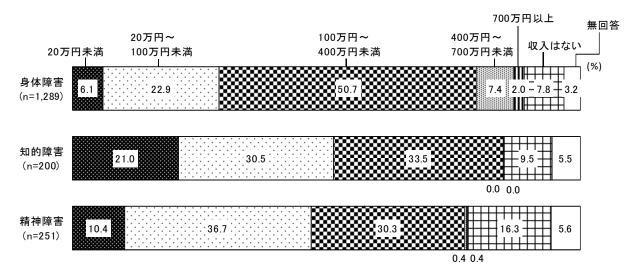
知的障害者は、「収入はない(28.9%)」が最も多く、「20万円~100万円未満(23.2%)」、「100万円~400万円未満(22.5%)」が続いている。18歳以上では、「収入はない(9.5%)」が10%以下となり、「100万円~400万円未満(33.5%)」が最も多く、「20万円~100万円未満(30.5%)」が続いている。

精神障害者は、「20 万円~100 万円未満 (36.7%)」が最も多く、「100 万円~400 万円未満 (30.3%)」が続いている。17 歳以下がいないため 18 歳以上でも変わらない。(図表 1-1 -13-①、②)



図表 1-1-13-(1) 年収(障害別)





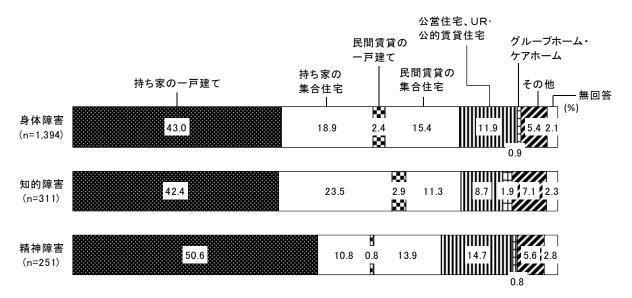
2 住まい

(1) 住居形態(問1)

住居形態は、身体障害者は、「持ち家の一戸建て(43.0%)」が最も多く、「持ち家の集合住宅(18.9%)」と合計すると、『持ち家』は61.9%となる。

知的障害者は、「持ち家の一戸建て(42.4%)」が最も多く、「持ち家の集合住宅(23.5%)」 と合計すると、『持ち家』は65.9%となる。

精神障害者は、「持ち家の一戸建て(50.6%)」が最も多く、「持ち家の集合住宅(10.8%)」と合計すると、『持ち家』は61.4%となる。(図表1-2-1)



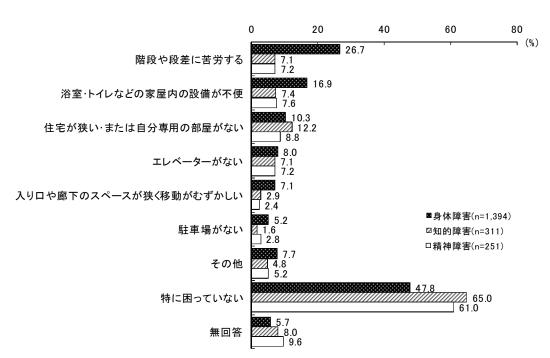
図表 1-2-1 住居形態 (障害別)

(2) 住居について困っていること 設計・設備(問2(1))

住まいの設計・設備について困っていることは、身体障害者は、「特に困っていない (47.8%)」が 40%を超えている。困っていることは、「階段や段差に苦労する (26.7%)」、「浴室・トイレなどの家屋内の設備が不便 (16.9%)」となっている。

知的障害者は、「特に困っていない(65.0%)」が60%を超えている。困っていることは、「住宅が狭い・または自分専用の部屋がない(12.2%)」が最も多くなっている。

精神障害者は、「特に困っていない (61.0%)」が 60%を超えている。困っていることは、「住宅が狭い・または自分専用の部屋がない (8.8%)」が最も多くなっている。(図表 1-2 -2)



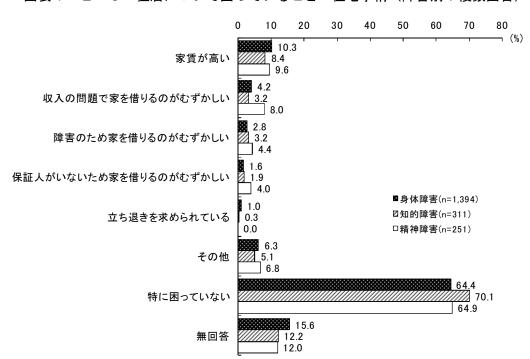
図表 1-2-2 住居について困っていること 設計・設備(障害別:複数回答)

(3) 住居について困っていること 住宅事情(問2(2))

住宅事情について困っていることは、身体障害者は、「特に困っていない」が 64.4%となっている。困っていることは、「家賃が高い (10.3%)」が最も多くなっている。

知的障害者は、「特に困っていない」が 70.1%となっている。困っていることは、「家賃が高い (8.4%)」が最も多くなっている。

精神障害者は、「特に困っていない」が 64.9%となっている。困っていることは、「家賃が高い (9.6%)」が最も多く、「収入の問題で家を借りるのが難しい (8.0%)」が続いている。 (図表 1-2-3)



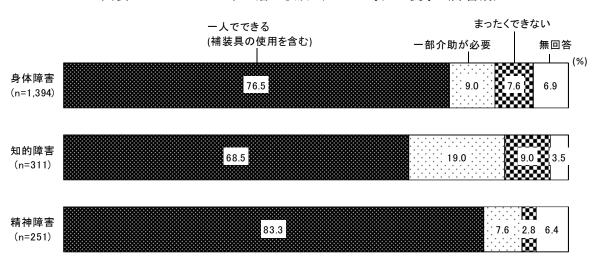
図表1-2-3 住居について困っていること 住宅事情(障害別:複数回答)

3 日常生活

(1) 日常生活の状況(ADL等) 食事(問3(1))

食事の状況は、身体障害者は、「一部介助が必要」が 9.0%、「まったくできない」が 7.6% となっている。

知的障害者は、「一部介助が必要」が 19.0%、「まったくできない」が 9.0%となっている。 精神障害者は、「一部介助が必要」が 7.6%、「まったくできない」が 2.8%となっている。 (図表 1-3-1)



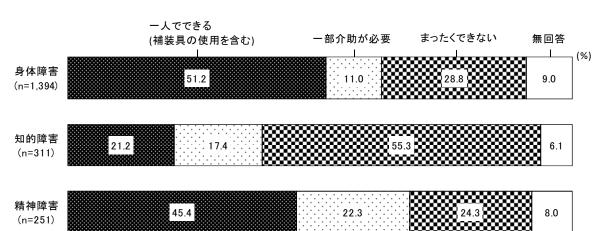
図表1-3-1 日常生活の状況(ADL等) 食事(障害別)

(2) 日常生活の状況(ADL等) 調理(問3(2))

調理の状況は、身体障害者は、「一部介助が必要」が 11.0%、「まったくできない」が 28.8% となっている。

知的障害者は、「まったくできない(55.3%)」が50%を超えている。

精神障害者は、「一部介助が必要」が 22.3%、「まったくできない」が 24.3%となっている。 (図表 1-3-2)

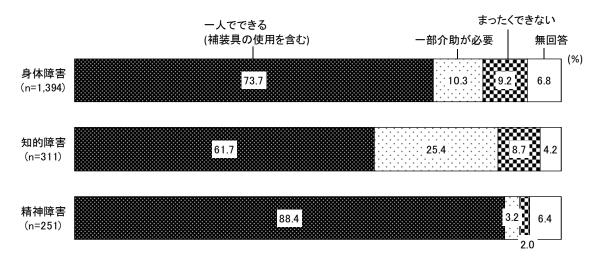


図表1-3-2 日常生活の状況(ADL等) 調理(障害別)

(3) 日常生活の状況 (ADL等) 排泄 (問3 (3))

排泄の状況は、身体障害者は、「一部介助が必要」が 10.3%、「まったくできない」が 9.2% となっている。

知的障害者は、「一部介助が必要」が 25.4%、「まったくできない」が 8.7%となっている。 精神障害者は、「一部介助が必要」が 3.2%、「まったくできない」が 2.0%となっている。 (図表 1-3-3)

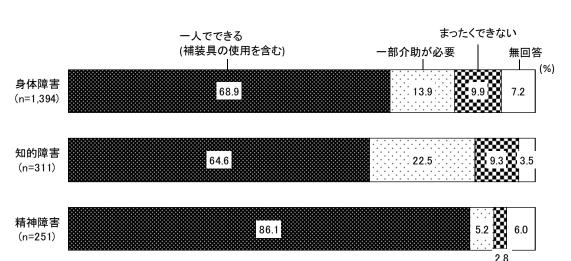


図表 1-3-3 日常生活の状況 (ADL等) 排泄 (障害別)

(4) 日常生活の状況(ADL等) 着替え(問3(4))

着替えの状況は、身体障害者は、「一部介助が必要」が 13.9%、「まったくできない」が 9.9%となっている。

知的障害者は、「一部介助が必要」が 22.5%、「まったくできない」が 9.3%となっている。 精神障害者は、「一部介助が必要」が 5.2%、「まったくできない」が 2.8%となっている。 (図表 1-3-4)

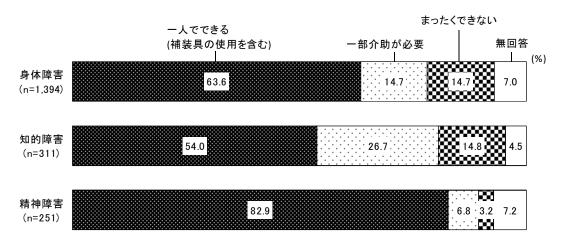


図表 1-3-4 日常生活の状況(ADL等) 着替え(障害別)

(5) 日常生活の状況(ADL等) 入浴(問3(5))

入浴の状況は、身体障害者は、「一部介助が必要」が 14.7%、「まったくできない」が 14.7% となっている。

知的障害者は、「一部介助が必要」が 26.7%、「まったくできない」が 14.8%となっている。 精神障害者は、「一部介助が必要」が 6.8%、「まったくできない」が 3.2%となっている。 (図表 1-3-5)



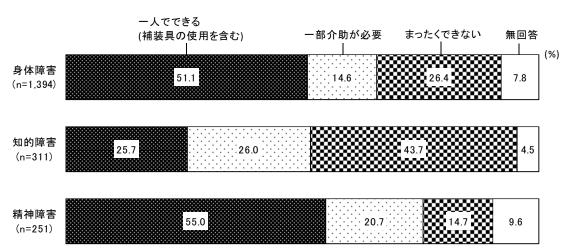
図表1-3-5 日常生活の状況(ADL等) 入浴(障害別)

(6) 日常生活の状況 (ADL等) 掃除、洗濯 (問3 (6))

掃除、洗濯の状況は、身体障害者は、「一部介助が必要」が 14.6%、「まったくできない」 が 26.4%となっている。

知的障害者は、「まったくできない(43.7%)」が 40%を超えており、「一部介助が必要」 が 26.0%となっている。

精神障害者は、「一部介助が必要」が 20.7%、「まったくできない」が 14.7%となっている。 (図表 1-3-6)

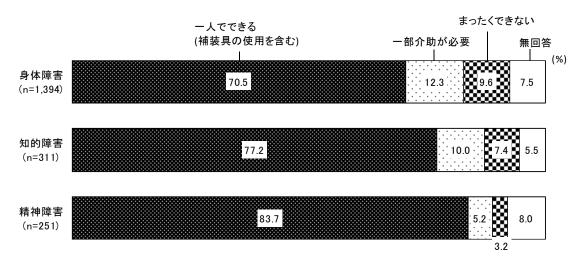


図表 1-3-6 日常生活の状況(ADL等) 掃除、洗濯(障害別)

(7) 日常生活の状況 (ADL等) 室内の移動(問3(7))

室内の移動の状況は、身体障害者は、「一部介助が必要」が12.3%、「まったくできない」が9.6%となっている。

知的障害者は、「一部介助が必要」が 10.0%、「まったくできない」が 7.4%となっている。 精神障害者は、「一部介助が必要」が 5.2%、「まったくできない」が 3.2%となっている。 (図表 1-3-7)



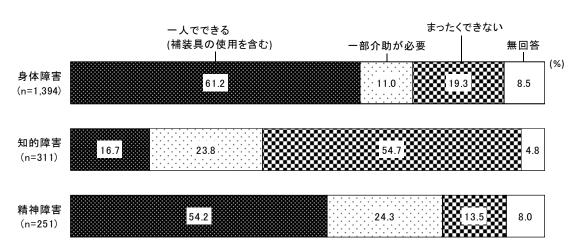
図表 1-3-7 日常生活の状況(ADL等) 室内の移動(障害別)

(8) 日常生活の状況(ADL等) お金の管理(問3(8))

お金の管理の状況は、身体障害者は、「一部介助が必要」が11.0%、「まったくできない」が19.3%となっている。

知的障害者は、「まったくできない(54.7%)」が50%を超えている。

精神障害者は、「一部介助が必要」が 24.3%、「まったくできない」が 13.5%となっている。 (図表 1-3-8)

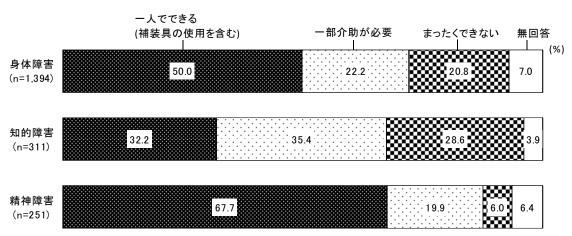


図表 1-3-8 日常生活の状況(ADL等) お金の管理(障害別)

(9) 日常生活の状況(ADL等) 外出(買い物なども含む)(問3(9))

外出(買い物なども含む)の状況は、身体障害者は、「一部介助が必要」が22.2%、「まったくできない」が20.8%となっている。

知的障害者は、「一部介助が必要」が 35.4%、「まったくできない」が 28.6%となっている。 精神障害者は、「一部介助が必要」が 19.9%、「まったくできない」が 6.0%となっている。 (図表 1-3-9)

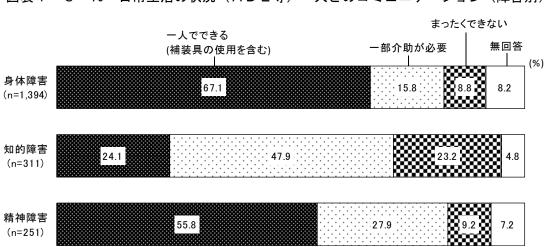


図表1-3-9 日常生活の状況(ADL等) 外出(買い物なども含む)(障害別)

(10) 日常生活の状況 (ADL等) 人とのコミュニケーション (問3 (10))

人とのコミュニケーションの状況は、身体障害者は、「一部介助が必要」が 15.8%、「まったくできない」が 8.8%となっている。

知的障害者は、「一部介助が必要」が 47.9%、「まったくできない」が 23.2%となっている。 精神障害者は、「一部介助が必要」が 27.9%、「まったくできない」が 9.2%となっている。 (図表 1-3-10)



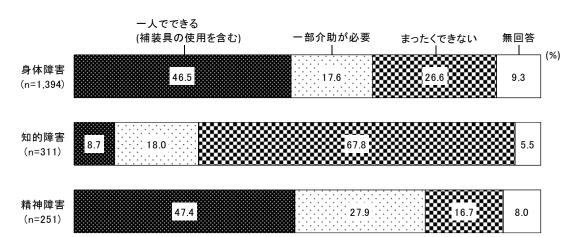
図表1-3-10 日常生活の状況(ADL等) 人とのコミュニケーション(障害別)

(11) 日常生活の状況 (ADL等) 障害福祉サービスなどの手続き (問3 (11))

障害福祉サービスなどの手続きの状況は、身体障害者は、「一部介助が必要」が 17.6%、「まったくできない」が 26.6%となっている。

知的障害者は、「まったくできない」が67.8%を占めている。

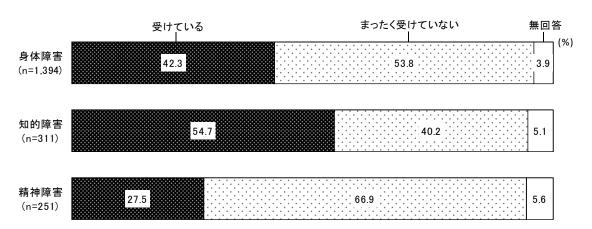
精神障害者は、「一部介助が必要」が 27.9%、「まったくできない」が 16.7%となっている。 (図表 1-3-11)



図表 1-3-11 日常生活の状況(ADL等) 障害福祉サービスなどの手続き(障害別)

(12) 介助の状況(問4)

日常生活の介助の状況は、身体障害者は、「受けている」が 42.3% となっている。 知的障害者は、「受けている」が 54.7%であり、50% を超えている。 精神障害者は、「受けている」が 27.5% となっている。(図表 1-3-12)



図表1-3-12 介助の状況(障害別)

(13) 家族等介助の頻度(問4-1)

介助を受けていると回答した人に、家族・親族等の介助の頻度をたずねたところ、身体障害者は、「毎日(55.9%)」が50%を超えている。

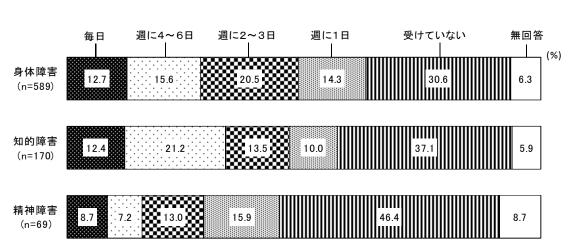
知的障害者は、「毎日」が 78.8%を占めている。 精神障害者は、「毎日」が 39.1%となっている。(図表 1 - 3 - 13)

受けていない 週に2~3日 週に1日 毎日 週に4~6日 無回答 (%) ۲ 身体障害 55.9 9.7 6.6 (n=589)知的障害 4.1 7.1 1.8 78.8 5.9 : 4.1 (n=170)精神障害 39.1 11.6 8.7 14.5 (n=69)

図表 1-3-13 家族等介助の頻度(障害別) <介助を受けていると回答した人>

(14) 公的サービスによる介助の頻度(問4-2)

介助を受けていると回答した人に、公的サービスによる介助の頻度をたずねたところ、身体障害者は、「受けていない」が 30.6%であり、「週に $2\sim3$ 日」が 20.5%となっている。 知的障害者は、「受けていない」が 37.1%であり、「週に $4\sim6$ 日」が 21.2%となっている。 精神障害者は、「受けていない」が 46.4%となっている。(図表 1-3-14)



図表 1 - 3 - 14 公的サービスによる介助の頻度 (障害別) <介助を受けていると回答した人>

(15) 家族等介助の頻度と公的サービスによる介助の頻度(問4-1×問4-2)

家族等介助の頻度と公的サービスによる介助の頻度を組み合わせると、身体障害者では、間 4 で介助を受けていると回答したのは 1, 394 人中 589 人であり、その中で家族等の介助、公的サービスをいずれも毎日受けているのは 64 人となっている。また、家族等の介助を毎日受けているが、公的サービスを受けていないのは 107 人となっている。(図表 1-3-15-1)

図表 1 - 3 - 15 - ① 家族等介助の頻度と公的サービスによる介助の頻度(身体障害者) <介助を受けていると回答した人>

								(人)
				公	的サービス	スによる介	助	
			日日	週 に 4 6 日	週 に 2 5 3 日	週 に 1 日	受けていない	無回答
全	体 (n=	589)	75	92	121	84	180	37
家	毎 日(n=	329)	64	62	54	32	107	10
族	週に4~6日(n=	39)	0	23	7	1	8	0
等	週に2~3日(n=	88)	3	1	45	8	25	6
介助	週 に 1 日(n=	57)	0	1	4	35	13	4
助	受けていない (n=	56)	7	5	7	2	24	11

なお、家族等の介助を毎日受けているが、公的サービスによる介助を受けていない人(107人)について、いくつかの項目を全体結果と比較すると、年齢は若い世代が多く、身体障害者福祉手帳の程度は重度の方が多くなっている。

また、障害福祉サービスの利用意向(問5)は全体的に高く、特に「日中活動系サービス」、「短期入所サービス」、「相談支援」、「移動支援」、「補装具・日常生活用具費の支給」が高くなっている。

また、府中市が充実させるべき施策(間 26)は、「補装具・日常生活用具給付事業を充実」、「移動支援サービスの充実」、「グループホームやケアホームの充実」、「短期入所の充実」で全体結果を 10.0 ポイント以上上回っている

知的障害者では、問 4 で介助を受けていると回答したのは 311 人中 170 人であり、その中で家族等の介助、公的なサービスをいずれも毎日受けているのは 20 人となっている。また、家族等の介助を毎日受けているが、公的サービスを受けていないのは 50 人となっている。(図表 1-3-15-2)

図表 1 - 3 - 15 - ② 家族等介助の頻度と公的サービスによる介助の頻度(知的障害者) <介助を受けていると回答した人>

								(人)
				公	的サービス	スによる介	·助	
			毎 日	週 に 4 6 日	週に2~3日	週 に 1 日	受けていない	無回答
全	体 (n=	170)	21	36	23	17	63	10
家	毎 日(n=	134)	20	28	19	11	50	6
族	週に4~6日(n=	10)	0	6	0	3	1	0
等	週に2~3日(n=	7)	0	0	3	0	4	0
介助	週 に 1 日(n=	4)	0	0	0	3	0	1
剅	受けていない (n=	12)	1	1	1	0	7	2

なお、家族等の介助を毎日受けているが、公的サービスによる介助を受けていない人(50人)について、いくつかの項目を全体結果と比較すると、年齢は学齢期未満の人が多く4割を占めている。

また、障害福祉サービスの利用意向(問5)は全体的に高く、特に「日中活動系サービス」、「短期入所サービス」、「相談支援」、「移動支援」が高くなっている。

また、府中市が充実させるべき施策(問 26)は、「障害のある人の働く場の確保や就労の 定着」、「通所施設の整備」、「移動支援サービスの充実」、「グループホームやケアホームの 充実」、「障害のある人に対する暴力や差別をなくすこと」で全体結果を 5.0 ポイント以上 上回っている。 精神障害者では、問4で介助を受けていると回答したのは251人中69人であり、その中で家族等の介助、公的なサービスをいずれも毎日受けているのは3人となっている。また、家族等の介助を毎日受けているが、公的サービスを受けていないのは20人となっている。(図表1-3-15-3)

図表 1 - 3 - 15 - ③ 家族等介助の頻度と公的サービスによる介助の頻度(精神障害者) <介助を受けていると回答した人>

								(人)
				公	的サービス	スによる介	·助	
			日日	週に4~~6日	週に 2 3 日	週 に 1 日	受けていない	無回答
全	体 (n=	69)	6	5	9	11	32	6
家	毎 日 (n=	27)	3	1	1	2	20	0
族	週に4~6日(n=	10)	0	4	2	0	4	0
等	週に2~3日(n=	10)	0	0	4	1	4	1
介助	週 に 1 日(n=	8)	0	0	0	6	2	0
剅	受けていない (n=	8)	1	0	0	2	2	3

なお、家族等の介助を毎日受けているが、公的サービスによる介助を受けていない人(20人)について、いくつかの項目を全体結果と比較すると、年齢は20人中14人が40~64歳となっている。

また、障害福祉サービスの利用意向(問 5)や府中市が充実させるべき施策(問 26)については、対象者数が20人のため大きな傾向は見られなかった。

4 障害福祉サービスの利用

(1) 訪問系サービス(問5(1))

訪問系サービスの利用状況、利用意向は、身体障害者は、「利用している」と「今後、利用したい」を合計した『利用希望』は40.0%となっている。

知的障害者は、『利用希望』が34.1%となっている。

精神障害者は、『利用希望』が30.3%となっている。(図表1-4-1)

利用している 今後、利用したい 利用したくない 無回答 (%) 身体障害 14.0 26.0 25.9 (n=1,394)知的障害 10.3 23.8 24.8 (n=311)精神障害 6.0 24.3 21.9 (n=251)

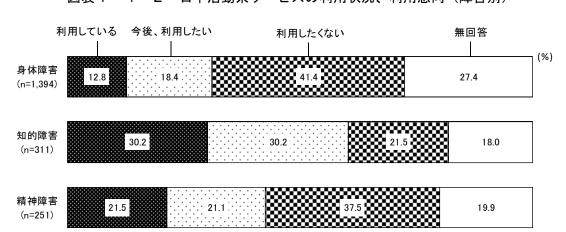
図表1-4-1 訪問系サービスの利用状況、利用意向(障害別)

(2) 日中活動系サービス(問5(2))

日中活動系サービスの利用状況、利用意向は、身体障害者は、「利用している」と「今後、利用したい」を合計した『利用希望』は31.2%となっている。

知的障害者は、『利用希望』が60.4%となっている。

精神障害者は、『利用希望』が42.6%となっている。(図表1-4-2)



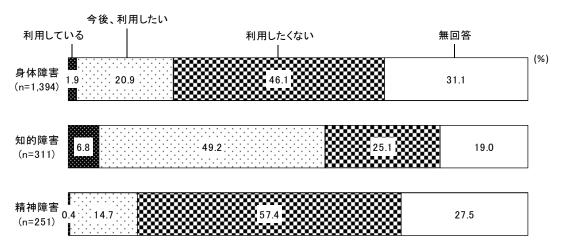
図表 1-4-2 日中活動系サービスの利用状況、利用意向(障害別)

(3) 居住系サービス(問5(3))

居住系サービスの利用状況、利用意向は、身体障害者は、「利用している」と「今後、利用したい」を合計した『利用希望』は22.8%となっている。

知的障害者は、『利用希望』が56.0%となっている。

精神障害者は、『利用希望』が15.1%となっている。(図表1-4-3)



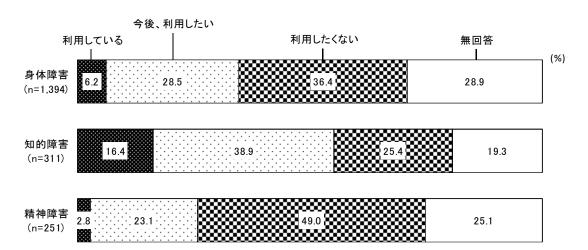
図表 1-4-3 居住系サービスの利用状況、利用意向(障害別)

(4) 短期入所サービス(問5(4))

短期入所サービスの利用状況、利用意向は、身体障害者は、「利用している」と「今後、利用したい」を合計した『利用希望』は34.7%となっている。

知的障害者は、『利用希望』が55.3%となっている。

精神障害者は、『利用希望』が25.9%となっている。(図表1-4-4)



図表1-4-4 短期入所サービスの利用状況、利用意向(障害別)

(5)相談支援(問5(5))

相談支援の利用状況、利用意向は、身体障害者は、「利用している」と「今後、利用したい」を合計した『利用希望』は45.5%となっている。

知的障害者は、『利用希望』が 68.2%となっている。 精神障害者は、『利用希望』が 57.8%となっている。(図表 1 - 4 - 5)

利用している 今後、利用したい 利用したくない 無回答 (%) 身体障害 35.7 9.8 29.1 (n=1,394)知的障害 13.2 55.0 18.6 (n=311)精神障害 11.2 46.6 20.3 (n=251)

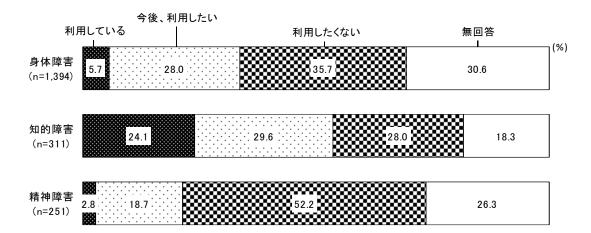
図表1-4-5 相談支援の利用状況、利用意向(障害別)

(6)移動支援(問5(6))

移動支援の利用状況、利用意向は、身体障害者は、「利用している」と「今後、利用したい」 を合計した『利用希望』は33.7%となっている。

知的障害者は、『利用希望』が53.7%となっている。

精神障害者は、『利用希望』が21.5%となっている。(図表1-4-6)



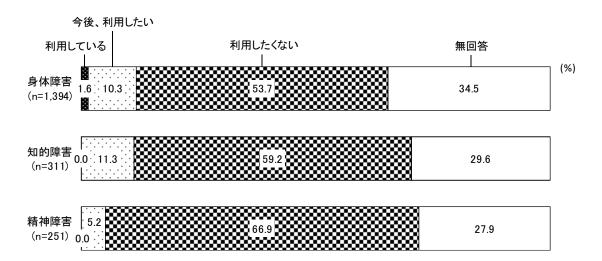
図表 1-4-6 移動支援の利用状況、利用意向(障害別)

(7) 意思疎通支援(問5(7))

意思疎通支援の利用状況、利用意向は、身体障害者は、「利用している」と「今後、利用したい」を合計した『利用希望』は11.9%となっている。

知的障害者は、「利用している」が 0.0%であり、「今後、利用したい」が 11.3%となっている。

精神障害者は、「利用している」が 0.0%であり、「今後、利用したい」が 5.2%となっている。(図表 1-4-7)



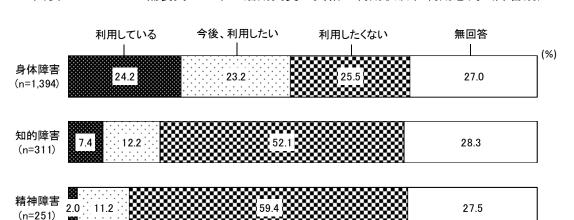
図表1-4-7 意思疎通支援の利用状況、利用意向(障害別)

(8) 補装具・日常生活用具費の支給(問5(8))

補装具・日常生活用具費の支給の利用状況、利用意向は、身体障害者は、「利用している」と「今後、利用したい」を合計した『利用希望』は47.4%となっている。

知的障害者は、『利用希望』が19.6%となっている。

精神障害者は、『利用希望』が13.2%となっている。(図表1-4-8)



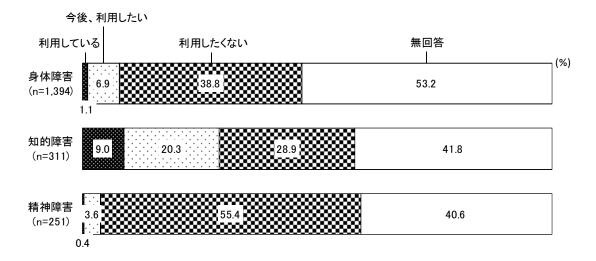
図表 1 - 4 - 8 補装具・日常生活用具費の支給の利用状況、利用意向(障害別)

(9) 児童に関するサービス(問5(9))

児童に関するサービスの利用状況、利用意向は、身体障害者は、「利用している」と「今後、利用したい」を合計した『利用希望』は8.0%となっている。

知的障害者は、『利用希望』が 29.3%となっている。 精神障害者は、『利用希望』が 4.0%となっている。(図表 1 - 4 - 9)

図表1-4-9 児童に関するサービスの利用状況、利用意向(障害別)



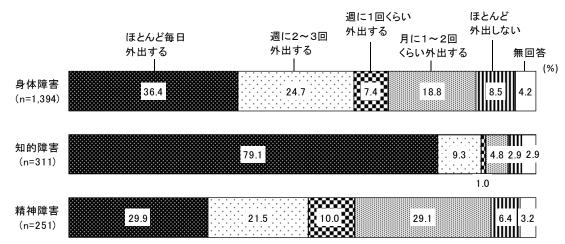
5 日ごろの活動

(1) 通学、通勤等による外出の頻度(問6)

通学、通勤、通所、通院のために外出する頻度は、身体障害者は、「ほとんど毎日外出する (36.4%)」が最も多く、「週に2~3回外出する (24.7%)」が続いている。

知的障害者は、「ほとんど毎日外出する」が79.1%を占めている。

精神障害者は、「ほとんど毎日外出する (29.9%)」、「月に $1\sim2$ 回外出する (29.1%)」がいずれも 30%弱となっている。 (図表1-5-1)



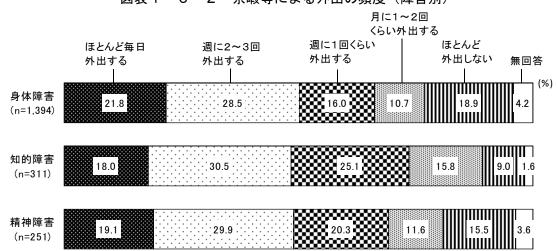
図表1-5-1 通学、通勤等による外出の頻度(障害別)

(2) 余暇等による外出の頻度(問7)

余暇活動等のために外出する頻度は、身体障害者は、「週に2~3回外出する(28.5%)」 が最も多く、「ほとんど毎日外出する(21.8%)」が続いている。

知的障害者は、「週に $2\sim3$ 回外出する(30.5%)」が最も多く、「週に1回くらい外出する(25.1%)」が続いている。

精神障害者は、「週に $2\sim3$ 回外出する(29.9%)」が最も多く、「週に1回くらい外出する(20.3%)」、「ほとんど毎日外出する(19.1%)」が続いている。(図表1-5-2)



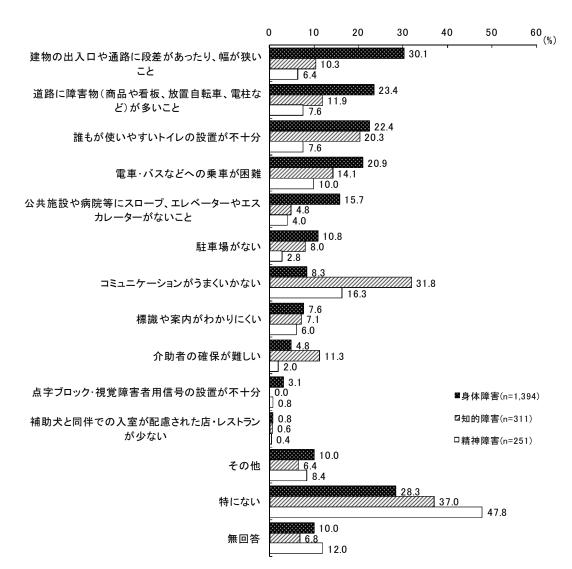
図表1-5-2 余暇等による外出の頻度(障害別)

(3) 外出時不便に思うこと(バリア等)(問8)

外出時に不便に思うことは、身体障害者は、「建物の出入口や通路に段差があったり、幅が狭いこと (30.1%)」が最も多く、「道路に障害物(商品や看板、放置自転車、電柱など)が多いこと (23.4%)」が続いている。「特にない」は 28.3%となっている。

知的障害者は、「特にない」が 37.0%となっている。「コミュニケーションがうまくいかない (31.8%)」が最も多く、「誰もが使いやすいトイレの設置が不十分 (20.3%)」が続いている。

精神障害者は、「特にない」が 47.8%となっている。不便に思うことは、「コミュニケーションがうまくいかない(16.3%)」が最も多くなっている。(図表 1-5-3)



図表 1-5-3 外出時不便に思うこと (バリア等) (障害別:複数回答)

6 就労

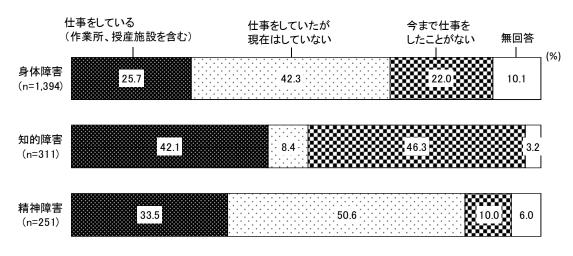
(1)現在の仕事(問9)

現在の仕事は、身体障害者は、「仕事をしている(作業所、授産施設を含む)」が 25.7% となっている。18 歳 \sim 64 歳では「仕事をしている(作業所、授産施設を含む)」が 52.7%、「仕事をしていたが現在はしていない」が 30.5% となっている。

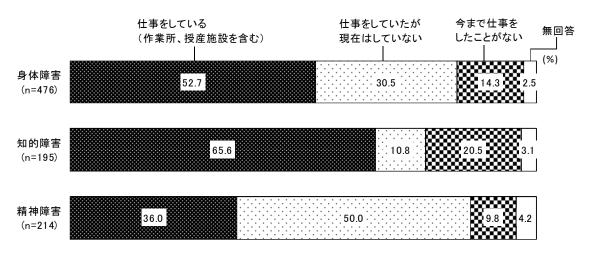
知的障害者は、「仕事をしている(作業所、授産施設を含む)」が 42.1%であり、18 歳~64 歳では 65.6%となっている。

精神障害者は、「仕事をしている(作業所、授産施設を含む)」が 33.5% となっている。18 歳~64 歳では「仕事をしている(作業所、授産施設を含む)」が 36.0%、「仕事をしていたが 現在はしていない」が 50.0% となっている。(図表 1-6-1-(1)、②)

図表1-6-1-① 現在の仕事(障害別)



図表 1-6-1-② 現在の仕事(18~64歳、障害別)

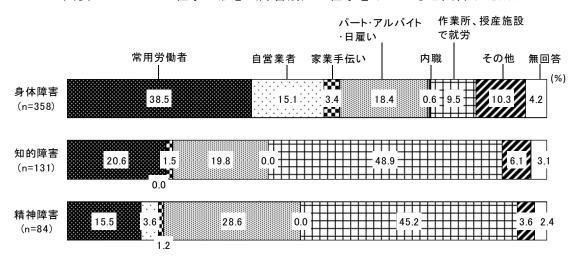


(2) 仕事の形態(問9-1)

仕事をしていると回答した人に、仕事の形態をたずねたところ、身体障害者は、「常用労働者(38.5%)」が最も多く、「パート・アルバイト・日雇い(18.4%)」が続いている。

知的障害者は、「作業所、授産施設で就労(48.9%)」が最も多く、「常用労働者(20.6%)」、「パート・アルバイト・日雇い(19.8%)」が続いている。

精神障害者は、「作業所、授産施設で就労(45.2%)」が最も多く、「パート・アルバイト・日雇い(28.6%)」、「常用労働者(15.5%)」が続いている。(図表1-6-2)



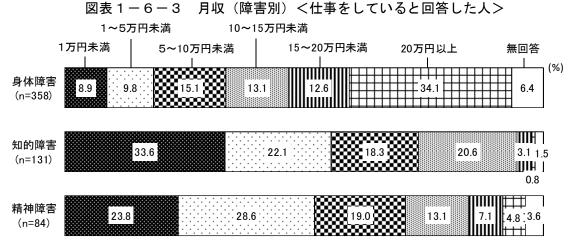
図表1-6-2 仕事の形態(障害別) <仕事をしていると回答した人>

(3) 月収(問9-2)

仕事をしていると回答した人に、月収をたずねたところ、身体障害者は、「20 万円以上 (34.1%)」が 30%を超えて最も多くなっている。

知的障害者は、「作業所、授産施設」に就労している人が 48.9% ということもあり、「1万 円未満 (33.6%)」が最も多く、「 $1\sim5$ 万円未満 (22.1%)」が続いている。

精神障害者は、「作業所、授産施設」に就労している人が 45.2% ということもあり、「 $1\sim5$ 万円未満 (28.6%)」が最も多く、「1 万円未満 (23.8%)」が続いている。(図表 1-6-3)



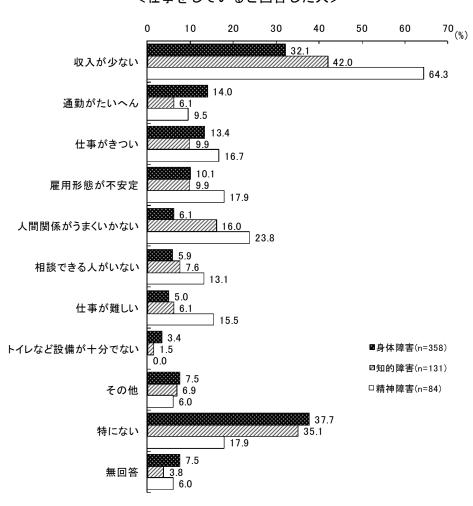
- 47 -

(4) 仕事をする上での不安(問9-3)

仕事をしていると回答した人に、仕事をする上での不安をたずねたところ、身体障害者は、「収入が少ない(32.1%)」で最も多く、「通勤がたいへん(14.0%)」、「仕事がきつい(13.4%)」が続いている。「特にない」は37.7%である。

知的障害者は、「収入が少ない(42.0%)」が最も多く、「人間関係がうまくいかない(16.0%)」が続いている。「特にない」は35.1%である。

精神障害者は、「収入が少ない(64.3%)」が60%を超えて最も多く、「人間関係がうまくいかない(23.8%)」、「雇用形態が不安定(17.9%)」が続いている。(図表1-6-4)



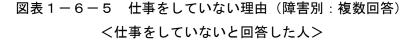
図表 1 - 6 - 4 仕事をする上での不安(障害別:複数回答) <仕事をしていると回答した人>

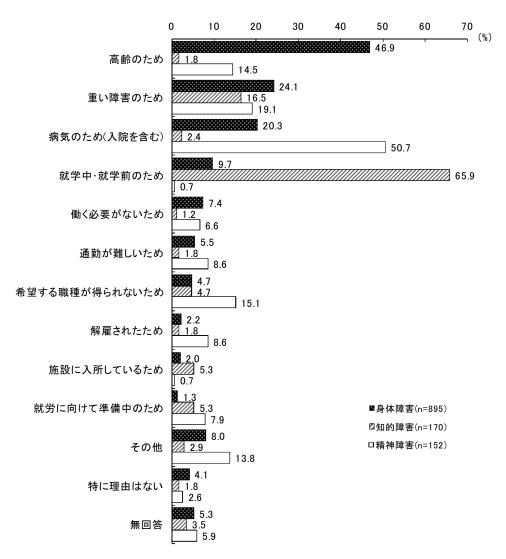
(5) 仕事をしていない理由(問9-4)

仕事をしていないと回答した人に、仕事をしていない理由をたずねたところ、身体障害者は、「高齢のため (46.9%)」が最も多く、「重い障害のため (24.1%)」、「病気のため (入院を含む) (20.3%)」が続いている。

知的障害者は、「就学中・就学前のため(65.9%)」が最も多く、「重い障害のため(16.5%)」 が続いている。

精神障害者は、「病気のため(入院を含む)(50.7%)」が最も多く、「重い障害のため(19.1%)」、「希望する職種が得られないため(15.1%)」、「高齢のため(14.5%)」が続いている。(図表 1-6-5)



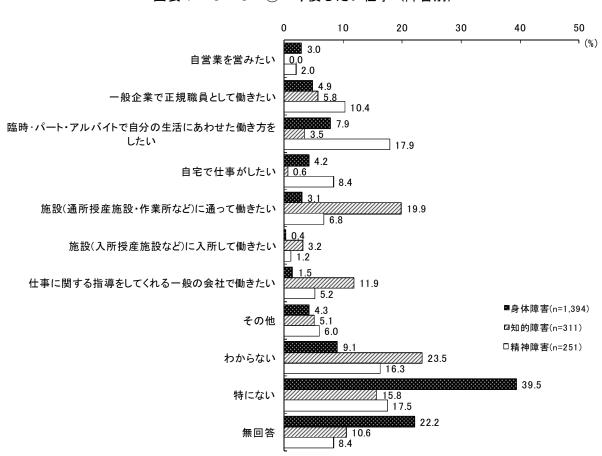


(6) 今後したい仕事(問10)

今後したい仕事は、身体障害者は、「臨時・パート・アルバイトで自分の生活にあわせた働き方をしたい (7.9%)」が最も多くなっている。

知的障害者は、「施設に通って働きたい(19.9%)」が最も多く、「仕事に関する指導をしてくれる一般の会社で働きたい(11.9%)」が続いている。

精神障害者は、「臨時・パート・アルバイトで自分の生活にあわせた働き方をしたい (17.9%)」が最も多く、「一般企業で正規職員として働きたい (10.4%)」が続いている。 (図表 1-6-6-(1))



図表 1-6-6-① 今後したい仕事(障害別)

身体障害者を年代別にみると、17歳未満では「施設(通所授産施設・作業所など)に通って働きたい(21.0%)」が最も多く、「一般企業で正規職員として働きたい(16.0%)」が続いている。18~39歳では「一般企業で正規職員として働きたい(19.0%)」が最も多く、「施設(通所授産施設・作業所など)に通って働きたい(12.4%)」が続いている。

就労の有無別にみると、現在仕事をしている人は「臨時・パート・アルバイトで自分の生活にあわせた働き方をしたい(14.8%)」が最も多く、「一般企業で正規職員として働きたい(12.6%)」が続いている。

仕事の形態別にみると、現在パート・アルバイト・日雇いの人では、「一般企業で正規職員として働きたい」が 18.2%となっている。(図表1-6-6-2)

図表 1-6-6-② 今後したい仕事(身体障害者:年代別、就労の有無別、仕事の形態別)

_																	(%)
							自営業を営みたい	一般企業で正規職員として働きたい	活にあわせた働き方をしたい臨時・パート・アルバイトで自分の生	自宅で仕事がしたい	通つて働きたい施設(通所授産施設・作業所など)に	たい施設(入所授産施設)に入所して働き	会社で働きたい仕事に関する指導をしてくれる一般の	その他	わからない	特にない	無回答
全					体 (n=		3.0	4.9	7.9	4.2	3.1	0.4	1.5	4.3	9.1	39.5	22.2
左	17	歳		未	満 (n=	81)	0.0	16.0	0.0	0.0	21.0	1.2	11.1	3.7	37.0	4.9	4.9
年代	18	~		39	歳 (n=		6.7	19.0	3.8	3.8	12.4	1.0	3.8	6.7	8.6	21.0	13.3
別	40	~		64	歳 (n=		5.9	9.2	16.7	8.6	1.6	0.3	1.1	5.4	10.0	26.1	15.1
	65	歳		以	上 (n=		1.6	0.0	5.4	2.8	0.9	0.2	0.5	3.6	5.9	51.5	27.6
	仕	事を	し	てい	る (n=		8.9	12.6	14.8	5.9	3.1	0.6	0.6	5.3	7.3	27.9	13.1
	ļ,,	常用	労	働	者 (n=		7.2	20.3	10.1	8.7	0.0	0.0	1.4	6.5	6.5	31.2	8.0
就	仕事	自 営		業	者 (n=		27.8	0.0	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	5.6	1.9	38.9	14.8
就労	の	家 業	手		い (n=		0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	41.7	25.0
の	形		ルバ	イト・日			6.1	18.2	43.9	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	6.1	16.7	6.1
有無	態別	内		.,	職 (n=		0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
無別	別			施設で			2.9	2.9	0.0	0.0	32.4	2.9	0.0	5.9	20.6	11.8	20.6
11.1	L.	そ	の		他 (n=		2.7	2.7	10.8	16.2	0.0	0.0	0.0	8.1	0.0	29.7	29.7
		事をしていた				589)	1.5	1.5	9.0	5.3	1.2	0.3	1.2	4.4	8.0	50.8	16.8
	今	まで仕事	をした	こことが	ない(n=	306)	0.0	4.6	1.3	1.6	7.8	0.3	3.6	4.6	15.4	41.8	19.0

知的障害者を年代別にみると、中学校卒業後~17 歳では、「施設(通所授産施設・作業所など)に通って働きたい(36.4%)」が最も多く、「仕事に関する指導をしてくれる一般の会社で働きたい(27.3%)」、「一般企業で正規職員として働きたい(18.2%)」が続いている。18~39歳では、「施設(通所授産施設・作業所など)に通って働きたい(20.2%)」が最も多く、「仕事に関する指導をしてくれる一般の会社で働きたい(13.2%)」が続いている。

就労の有無別にみると、現在仕事をしている人は、「施設(通所授産施設・作業所など)に通って働きたい(17.6%)」が最も多く、「仕事に関する指導をしてくれる一般の会社で働きたい(13.7%)」が続いている。

仕事の形態別にみると、現在パート・アルバイト・日雇いの人では、「一般企業で正規職員として働きたい」が 15.4%となっている。また、現在作業所・授産施設で就労している人では、「仕事に関する指導をしてくれる一般の会社で働きたい (14.1%)」となっている。(図表 1-6-6-3)

図表 1-6-6-3 今後したい仕事(知的障害者:年代別、就労の有無別、仕事の形態別)

																(%)
						自営業を営みたい	一般企業で正規職員として働きたい	活にあわせた働き方をしたい臨時・パート・アルバイトで自分の生	自宅で仕事がしたい	通つて働きたい施設(通所授産施設・作業所など)に	たい 施設(入所授産施設)に入所して働き	会社で働きたい仕事に関する指導をしてくれる一般の	その他	わからない	特にない	無回答
全				体 (n=	311)	0.0	5.8	3.5	0.6	19.9	3.2	11.9	5.1	23.5	15.8	10.6
	乳	幼	児	期 (n=	11)	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	63.6	9.1	18.2
_	学	齢		期 (n=	74)	0.0	9.5	0.0	0.0	23.0	1.4	12.2	4.1	45.9	2.7	1.4
年代	中	学校卒業	後 ~ 17	歳 (n=	22)	0.0	18.2	0.0	0.0	36.4	0.0	27.3	0.0	9.1	4.5	4.5
別	18	~	39	歳(n=	129)	0.0	5.4	4.7	0.0	20.2	2.3	13.2	6.2	16.3	20.2	11.6
73.3	40	~	64	歳(n=	66)	0.0	0.0	7.6	1.5	15.2	9.1	7.6	7.6	12.1	21.2	18.2
	65	歳	以	上 (n=	5)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	80.0	0.0
	仕	事 を し	てい	る (n=	131)	0.0	4.6	5.3	0.8	17.6	3.1	13.7	5.3	16.8	22.1	10.7
			労 働	者 (n=	27)	0.0	3.7	3.7	0.0	3.7	0.0	11.1	14.8	22.2	29.6	11.1
就	仕 事	自 営	業	者 (n=	0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労	争の	ル	手 伝	い (n=	2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
の	の形	パート・アル	バイト・日雇	星い (n=	26)	0.0	15.4	15.4	0.0	0.0	0.0	11.5	0.0	19.2	26.9	11.5
有	形態	内		職 (n=	0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無別	別	作業所、授品	産施 設で 就	t 労 (n=	64)	0.0	1.6	3.1	1.6	31.3	6.3	14.1	3.1	14.1	17.2	7.8
ارز			カ	他 (n=	8)	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	12.5	25.0	12.5	25.0
	仕	事をしていたが刄	見在はしていっ	ない (n=	26)	0.0	3.8	7.7	3.8	15.4	3.8	7.7	0.0	23.1	26.9	7.7
	今	まで仕事をし	たことがな	よい (n=	144)	0.0	7.6	1.4	0.0	24.3	2.1	11.8	6.3	29.9	8.3	8.3

精神障害者を年代別にみると、18~39 歳では「一般企業で正規職員として働きたい (26.2%)」と「臨時・パート・アルバイトで自分の生活にあわせた働き方をしたい (26.2%)」 が同率で最も多くなっている。

就労の有無別にみると、現在仕事をしている人は「一般企業で正規職員として働きたい (20.2%)」、「臨時・パート・アルバイトで自分の生活にあわせた働き方をしたい (19.0%)」 が 20%前後である。

仕事の形態別にみると、現在パート・アルバイト・日雇いの人では、「一般企業で正規職員として働きたい」が 29.2%となっている。現在作業所、授産施設で就労している人では、「一般企業で正規職員として働きたい」が 13.2%、「臨時・パート・アルバイトで自分の生活にあわせた働き方をしたい」が 15.8%となっている。(図表 1-6-6-9)

図表 1 - 6 - 6 - ④ 今後したい仕事(精神障害者:年代別、就労の有無別、仕事の形態別)

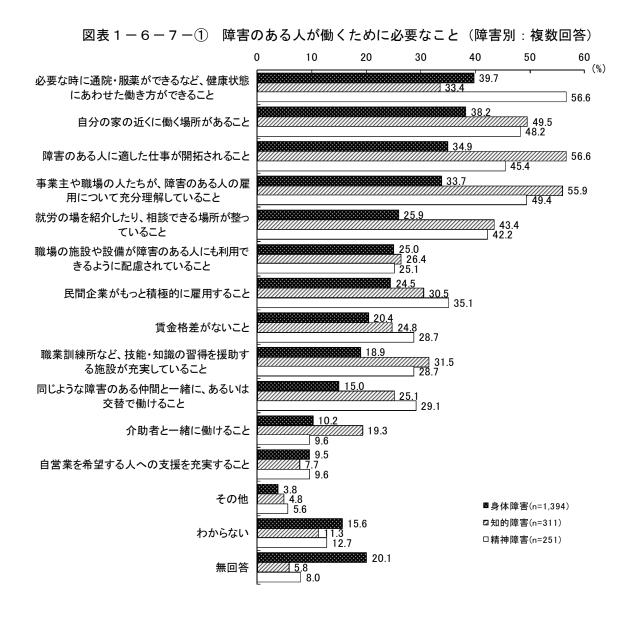
																			(%)
									自営業を営みたい	一般企業で正規職員として働きたい	活にあわせた働き方をしたい臨時・パート・アルバイトで自分の生	自宅で仕事がしたい	通つて働きたい施設(通所授産施設・作業所など)に	たい施設(入所授産施設)に入所して働き	会社で働きたい仕事に関する指導をしてくれる一般の	その他	わからない	特にない	無回答
全							体 (n=	251)	2.0	10.4	17.9	8.4	6.8	1.2	5.2	6.0	16.3	17.5	8.4
	17		歳		未		満 (n=	0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年代	18		~		39		歳 (n=	65)	0.0	26.2	26.2	7.7	1.5	0.0	10.8	9.2	9.2	4.6	4.6
別	40		~		64		歳 (n=	149)	2.7	6.0	18.8	9.4	8.1	1.3	4.0	4.7	20.8	18.8	5.4
	65		歳		以		上 (n=	34)	2.9	0.0	0.0	5.9	11.8	2.9	0.0	2.9	11.8	38.2	23.5
	仕	事	を	L	て	い	る (n=	84)	1.2	20.2	19.0	2.4	15.5	1.2	7.1	2.4	14.3	10.7	6.0
	l	常	用	労		動	者 (n=	13)	0.0	30.8	7.7	7.7	0.0	0.0	15.4	15.4	7.7	15.4	0.0
就	仕 事	自	営		業		者 (n=	3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		66.7	33.3
就労	事	家	業	手		伝	い (n=	1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
の	の 形		ト・ア	ルバ	イト	・日原	雇い (n=	24)	4.2	29.2	29.2	4.2	0.0	0.0	8.3	0.0		12.5	0.0
有	態	内					職 (n=	0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0	0.0
無別	別		所、抗		施設	で京	尤 労 (n=	38)	0.0	13.2	15.8	0.0	31.6	2.6	5.3	0.0		2.6	7.9
נימ		そ		の			他 (n=	3)	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
							ない (n=	127)	3.1	5.5	21.3	11.8	2.4	0.8	3.9	7.1	19.7	20.5	3.9
	今	まで・	仕事を	をした	ここと	こがた	よい(n=	25)	0.0	4.0	8.0	12.0	4.0	0.0	8.0	12.0	16.0	28.0	8.0

(7) 障害のある人が働くために必要なこと(問11)

障害のある人が働くために必要なことは、身体障害者は、「必要な時に通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること (39.7%)」が最も多く、「自分の家の近くに働く場所がある (38.2%)」が続いている。

知的障害者は、「障害のある人に適した仕事が開拓されること (56.6%)」が最も多く、「事業主や職場の人たちが、が障害のある人の雇用について充分理解していること (55.9%)」が続いている。

精神障害者は、「必要な時に通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること(56.6%)」が最も多く、「事業主や職場の人たちが、が障害のある人の雇用について充分理解していること(49.4%)」が続いている。(図表1-6-7-1)



- 54 -

身体障害者を年代別にみると、17歳未満では8項目で50%を超えており、「障害のある人に適した仕事が開拓されること(69.1%)」が最も多くなっている。18~39歳では、「必要な時に通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること(54.3%)」、「障害のある人に適した仕事が開拓されること(53.3%)」、「事業主や職場の人たちが、が障害のある人の雇用について充分理解していること(53.3%)」が50%を超えている。

就労の有無別にみると、仕事をしている人では「自分の家の近くに働く場所があること (48.6%)」、「必要な時に通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること (48.6%)」が同率で最も多くなっている。

仕事の形態別にみると、常用労働者では「事業主や職場の人たちが、が障害のある人の雇用について充分理解していること (58.0%)」が最も多く、パート・アルバイト・日雇いの人では「自分の家の近くに働く場所があること (54.5%)」が最も多くなっている。(図表 1-6-7-2)

図表 1 - 6 - 7 - ② 障害のある人が働くために必要なこと (身体障害者:年代別、就労の有無別、仕事の形態別:複数回答)

																					(%)
							態にあわせた働き方ができること。必要な時に通院・服薬ができるなど、健康状	自分の家の近くに働く場所があること	障害のある人に適した仕事が開拓されること	に業 つ主	と介 し	きるように配慮されていること職場の施設や設備が障害のある人にも利用で	民間企業がもつと積極的に雇用すること	賃金格差がないこと	設訓 が練 充所	は交替で働けること同じような障害のある仲間と一緒に、あるい	介助者と一緒に働けること	自営業を希望する人への支援を充実こと	その他	わからない	無回答
全					体 (n=	1,394)	39.7	38.2	34.9	33.7	25.9	25.0	24.5	20.4	18.9	15.0	10.2	9.5	3.8	15.6	20.1
年	17		歳	未	満 (n=	81)	65.4	59.3	69.1	66.7	56.8	55.6	55.6	50.6	39.5	39.5	29.6	14.8	6.2	2.5	3.7
代	18		~	39	歳 (n=	105)	54.3	41.9	53.3	53.3	37.1	41.9	37.1	35.2	23.8	20.0	18.1	12.4	9.5	7.6	9.5
別	40		~ 	64	歳 (n=	371)	53.6	51.5	40.4	46.9	34.2	33.4	33.4	30.7	22.4	15.6	10.8	14.8	5.1	6.7	8.1
\vdash	65 仕	事	<u>歳</u> をし	<u>以</u> てい	上 (n=	813) 358)	29.5 48.6	30.3 48.6	27.2 39.1	22.6	18.1 31.6	16.5 30.7	15.7 34.6	11.1 32.7	14.9 21.5	11.9	7.3 8.7	6.3 15.4	2.3 4.2	21.6 6.7	27.7
	11	常			* る(n- 者(n=	138)	53.6	52.2	45.7	43.0 58.0	44.2	42.0	45.7	32.7 47.1	26.1	13.4 14.5	8.7	14.5	5.1	2.2	9.8 1.4
	仕			業		54)	46.3	35.2	22.2	25.9	18.5	14.8	20.4	16.7	14.8	5.6	3.7	29.6	5.6	11.1	11.1
就労	事	 家			しい (n=	12)	33.3	50.0	25.0	25.0	16.7	16.7	8.3	0.0	16.7	16.7	8.3	8.3	0.0	16.7	16.7
の	の			<u>, </u>		66)	51.5	54.5	43.9	45.5	31.8	30.3	43.9	40.9	16.7	9.1	7.6	12.1	4.5	6.1	6.1
有	形態	内	***************************************		職(n=	2)	50.0	100.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無	別	作業	所、授產	産施設で	就 労 (n=	34)	58.8	58.8	58.8	35.3	29.4	41.2	29.4	17.6	32.4	26.5	20.6	8.8	2.9	5.9	14.7
別		そ		D	他 (n=	37)	32.4	37.8	27.0	32.4	13.5	13.5	24.3	18.9	18.9	18.9	10.8	16.2	2.7	10.8	32.4
	仕	事をし	ていたが理	見在 はしてし	いない (n=	589)	41.4	38.5	34.8	33.6	26.0	24.1	22.9	16.0	18.5	15.4	9.7	8.3	2.9	20.9	14.9
	今	まで	仕事をし	たことが	ない(n=	306)	38.6	37.9	40.5	34.6	27.1	28.8	23.5	20.9	21.6	20.6	15.4	7.5	6.5	18.6	18.3

知的障害者を年代別にみると、中学校卒業後~17歳では「就労の場を紹介したり、相談できる場所が整っていること(68.2%)」が最も多くなっている。18~39歳では「障害のある人に適した仕事が開拓されること(55.0%)」が最も多くなっている。

就労の有無別にみると、仕事をしている人では「自分の家の近くに働く場所があること (49.6%)」が最も多く、「障害のある人に適した仕事が開拓されること (48.1%)」が続いている。

仕事の形態別にみると、常用労働者、パート・アルバイト・日雇いの人ともに「事業主や職場の人たちが、が障害のある人の雇用について充分理解していること(55.6%、46.2%)」が最も多くなっている。作業所、授産施設で就労している人では、「障害のある人に適した仕事が開拓されること(53.1%)」が最も多くなっている。(図表1-6-7-3)

図表 1 - 6 - 7 - ③ 障害のある人が働くために必要なこと (知的障害者:年代別、就労の有無別、仕事の形態別:複数回答)

																						(%)
								態にあわせた働き方ができること必要な時に通院・服薬ができるなど、健康状	自分の家の近くに働く場所があること	障害のある人に適した仕事が開拓されること	用について充分理解されていること事業主や職場の人たちが、障害のある人の雇	ている こ紹	きるように配慮されていること職場の施設や設備が障害のある人にも利用で	民間企業がもつと積極的に雇用すること	格 差	施業 設訓 が練		介助者と一緒に働けること	自営業を希望する人への支援を充実こと	その他	わからない	無回答
全						体 (n=	311)	33.4	49.5	56.6	55.9	43.4	26.4	30.5	24.8	31.5	25.1	19.3	7.7	4.8	11.3	5.8
	乳		幼			期 (n=	11)	27.3	63.6	63.6	81.8	45.5	45.5	36.4	45.5	36.4	36.4	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1
年	学			齢		期 (n=	74)	35.1	56.8	78.4	78.4	63.5	39.2	44.6	32.4	50.0	29.7	24.3	10.8	6.8	8.1	0.0
代	中	学	校卒	業	後 ~ 1		22)	27.3	50.0	63.6	59.1	68.2	9.1	45.5	31.8	31.8	22.7	4.5	13.6	9.1	4.5	0.0
別	18		~		39	歳 (n=	129)	38.8	49.6	55.0	51.9	36.4	26.4	29.5	22.5	29.5	24.0	22.5	7.0	5.4	14.0	5.4
	40		~		64	歳 (n=	66)	27.3	42.4	36.4	37.9	31.8	16.7	15.2	16.7	18.2	24.2	13.6	4.5	1.5	12.1	12.1
	65	_	歳		以	上 (n=	5)	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	40.0	0.0
	仕	事		L	てい	る (n=	131)	35.9	49.6	48.1	44.3	32.1	23.7	23.7	24.4	27.5	22.9	19.1	4.6	4.6	13.7	4.6
		常	<u>用</u> 営	労	· <u>働</u> 業	者 (n=	27)	37.0	51.9	51.9	55.6	33.3	22.2	37.0	44.4	40.7	22.2	14.8	11.1	0.0	14.8	0.0
就	事	自宏	業			者 (n=	0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
労の	の	家パ		手		い (n=	2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		100.0	0.0
の有	形		. r · y	ルハ	イト・日		26)	34.6	34.6	34.6	46.2	38.5	23.1	23.1	30.8	23.1	19.2	7.7	3.8	11.5	19.2	11.5
無	態品	内作業	F 5F +	四 产	施設です	職(n=	0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0 3.1	0.0	0.0	0.0
別	別	TF 未 そ	: I) \ 1	叉性の		が 分 (n= 他 (n=	64) 8)	40.6 12.5	51.6 62.5	53.1 50.0	39.1 50.0	29.7 37.5	26.6 0.0	18.8 25.0	17.2 12.5	23.4 37.5	28.1 12.5	26.6 25.0	0.0	1.6 25.0	9.4	4.7 0.0
	/ + :		アハナー		<u>'</u> 在 はしてい		26)	23.1	42.3	42.3	57.7	42.3	19.2	23.1	15.4	26.9	26.9	11.5	7.7	0.0	26.9	3.8
	***********				在はしてい たことが		144)	34.0	53.5	70.1	68.8	56.9	31.9	40.3	27.8	36.8	28.5	22.2	11.1	6.3	6.3	4.9
Ш	7	6 ر	止 尹 ?	<u>.</u> U	/ <i>/</i> _ // // // // // // // // // // // // /	φ r. (II–	144)	34.0	55.5	/0.1	00.0	30.9	31.9	40.3	21.0	30.0	20.3	LL.Z	11.1	0.3	0.3	4.3

精神障害者を年代別にみると、18~39歳は「事業主や職場の人たちが、が障害のある人の雇用について充分理解していること (69.2%)」が最も多く、「必要な時に通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること (66.2%)」が続いている。

就労の有無別にみると、仕事をしている人は「必要な時に通院・服薬ができるなど、健康 状態にあわせた働き方ができること (61.9%)」が最も多くなっている。

仕事の形態別にみると、常用労働者では「障害のある人に適した仕事が開拓されること (76.9%)」と「民間企業がもっと積極的に雇用すること (76.9%)」が同率で最も多くなっている。パート・アルバイト・日雇いの人では「必要な時に通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること (66.7%)」と「就労の場を紹介したり、相談できる場所が整っていること (66.7%)」が同率で最も多くなっている。作業所、授産施設で就労している人では、「必要な時に通院・服薬ができるなど、健康状態にあわせた働き方ができること (65.8%)」が最も多くなっている。(図表 1-6-7-4)

図表 1 - 6 - 7 - ④ 障害のある人が働くために必要なこと (精神障害者:年代別、就労の有無別、仕事の形態別:複数回答)

																						(%)
								態にあわせた働き方ができること必要な時に通院・服薬ができるなど、健康状	自分の家の近くに働く場所があること	障害のある人に適した仕事が開拓されること	用について充分理解されていること事業主や職場の人たちが、障害のある人の雇	整っていること 就労の場を紹介したり、相談できる場所が	きるように配慮されていること職場の施設や設備が障害のある人にも利用で	民間企業がもっと積極的に雇用すること	格	設訓 が練 充所	は交替で働けること同じような障害のある仲間と一緒に、あるい	介助者と一緒に働けること	自営業を希望する人への支援を充実こと	その他	わからない	無回答
全						体 (n=	251)	56.6	48.2	45.4	49.4	42.2	25.1	35.1	28.7	28.7	29.1	9.6	9.6	5.6	12.7	8.0
年	17		歳	#		満 (n=	0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
代	18		~	3		歳 (n=	65)	66.2	41.5	56.9	69.2	58.5	27.7	58.5	44.6	40.0	30.8	12.3	10.8	12.3	4.6	3.1
別	40		~	6		歳 (n=	149)	59.1	55.0	45.0	49.7	42.3	28.2	30.2	27.5	28.9	31.5	10.1	10.1	2.0	14.1	6.7
	65 仕	事	歳	Į.		上 (n=	34)	32.4	35.3	29.4	14.7	14.7	8.8	14.7	5.9	8.8	17.6	2.9	5.9	8.8	20.6	17.6
	11	常	<u>をし</u> 用	<u>ノ て</u> 労	<u>い</u> 働	る (n= 者 (n=	84) 13)	61.9 69.2	52.4 53.8	52.4 76.9	54.8 69.2	56.0 61.5	29.8 30.8	45.2 76.9	35.7 69.2	40.5 61.5	34.5 30.8	9.5 30.8	8.3 23.1	6.0 7.7	6.0	7.1
4.1	仕				<u> 劉</u> 業		3)	33.3	0.0	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
就労	事	 家		手	 伝	- は (n=	1)	0.0	0.0		100.0	0.0		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
カの	の		<u>・・</u> アル			 雇い(n=	24)	66.7	62.5	54.2	58.3	66.7	25.0	50.0	29.2	41.7	29.2	12.5	8.3	16.7	8.3	0.0
有	形態	内		·····		<u>ルー・、ハー</u> 職(n=	0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無			所、授.	産施	設です	就 労 (n=	38)	65.8	52.6	50.0	52.6	52.6	36.8	34.2	36.8	36.8	47.4	2.6	5.3	0.0	5.3	7.9
別		そ		の		他 (n=	3)	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
			ていたが				127)	59.1	48.8	48.8	53.5	41.7	25.2	32.3	26.8	24.4	29.1	10.2	13.4	4.7	16.5	3.9
	今	まで	仕事をし	したこ	ことが	ない(n=	25)	44.0	44.0	24.0	20.0	16.0	20.0	20.0	24.0	24.0	20.0	12.0	0.0	4.0	20.0	12.0

7 地域生活

(1) 近所づきあいの現状(問12)

隣近所の人とのつきあいの現状は、身体障害者は、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる(41.8%)」が最も多く、「さしさわりのないことなら、話せる相手がいる(24.0%)」が続いている。「ほとんど近所づきあいをしない」は18.3%となっている。

知的障害者は、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる(43.4%)」が最も多く、「ほとんど近所づきあいをしない(32.5%)」が続いている。

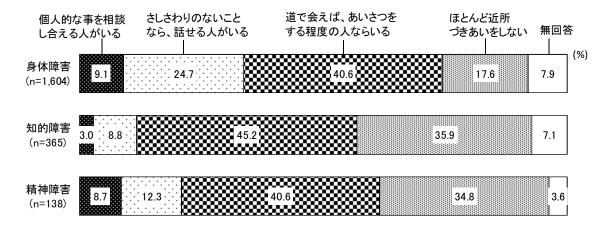
精神障害者は、「道で会えば、あいさつをする程度の人ならいる (38.2%)」が最も多く、「ほとんど近所づきあいをしない (31.5%)」が続いている。(図表1-7-1-①)

前回調査と比較すると、知的障害者では「個人的なことを相談し合える人がいる」の割合が高くなっている。また、精神障害者では「個人的なことを相談し合える人がいる」の割合が低くなり、「さしさわりのないことなら、話せる人がいる」の割合が高くなっている。(図表1-7-1-(1)、②)

さしさわりのないこと ほとんど近所 道で会えば、あいさつを 個人的な事を相談 なら、話せる人がいる する程度の人ならいる づきあいをしない 無回答 し合える人がいる (%) 身体障害 41.8 8.2 24.0 18.3 7.7 (n=1,394)43.4 知的障害 32.5 8.4 10.9 4.8 (n=311)精神障害 31.5 38.2 5.6 4.8 19.9 (n=251)

図表 1-7-1-(1) 近所づきあいの現状 (障害別)

図表 1-7-1-② 近所づきあいの現状 (障害別) 【平成 19 年度調査】

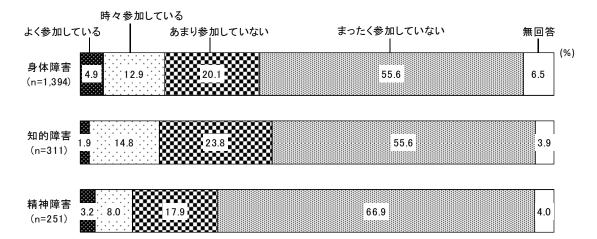


(2)地域活動への参加程度(問13)

地域活動やボランティア活動、地域の行事への参加程度は、身体障害者は、「まったく参加していない」が 55.6%である。「よく参加している」と「時々参加している」を合計すると 17.8%である。

知的障害者は、「まったく参加していない」が 55.6%である。「よく参加している」と「時々参加している」を合計すると 16.7%である。

精神障害者は、「まったく参加していない」が 66.9%である。「よく参加している」と「時々参加している」を合計すると 11.2%である。(図表 1-7-2)



図表1-7-2 地域活動への参加程度(障害別)

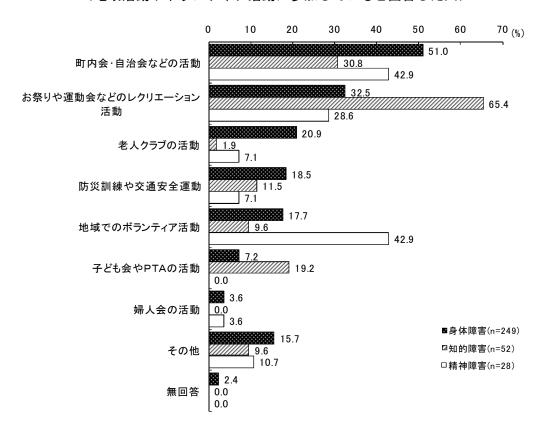
(3) 参加している地域活動の種類(問13-1)

地域活動やボランティア活動に参加していると回答した人に、参加している活動や行事の 種類をたずねたところ、身体障害者は、「町内会・自治会などの活動(51.0%)」が最も多く、 「お祭りや運動会などのレクリエーション活動(32.5%)」が続いている。

知的障害者は、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動(65.4%)」が最も多く、「町内会・自治会などの活動(30.8%)」、「子ども会やPTAの活動(19.2%)」が続いている。

精神障害者は、「町内会・自治会などの活動 (42.9%)」と「地域でのボランティア活動 (42.9%)」が同率で最も多くなっており、「お祭りや運動会などのレクリエーション活動 (28.6%)」が続いている。(図表 1-7-3)

図表 1-7-3 参加している地域活動の種類(障害別:複数回答) <地域活動やボランティア活動に参加していると回答した人>

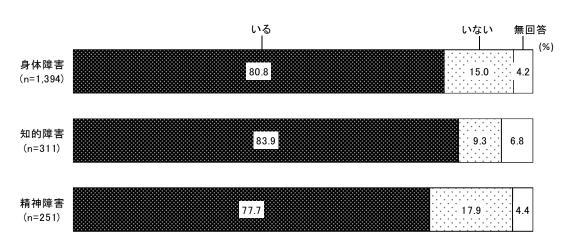


8 相談

(1) 相談できる人の有無(問 14)

相談できる人の有無は、身体障害者は、「いる」が80.8%、「いない」が15.0%となっている。

知的障害者は、「いる」が 83.9%、「いない」が 9.3%となっている。 精神障害者は、「いる」が 77.7%、「いない」が 17.9%となっている。(図表 1-8-1)



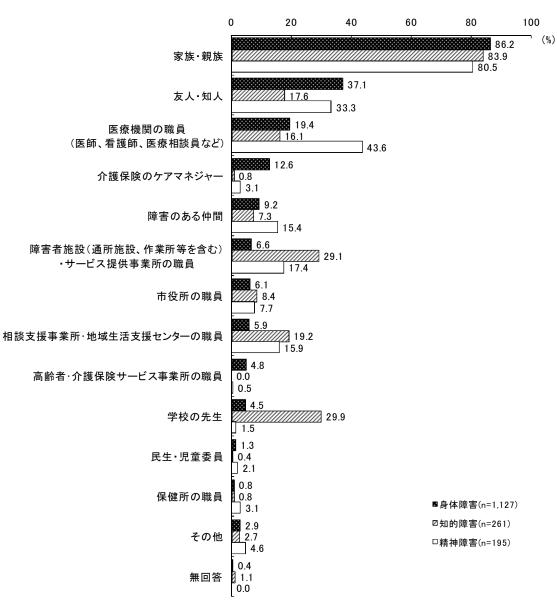
図表1-8-1 相談できる人の有無(障害別)

(2) 相談先(問14-1)

相談する人がいると回答した人に、相談先をたずねたところ、身体障害者は、「家族・親族 (86.2%)」が最も多く、「友人・知人 (37.1%)」、「医療機関の職員 (医師、看護師、医療相談員など) (19.4%)」が続いている。

知的障害者は、「家族・親族(83.9%)」が最も多く、「学校の先生(29.9%)」、「障害者施設(通所施設、作業所等を含む)・サービス提供事業所の職員(29.1%)」が続いている。

精神障害者は、「家族・親族(80.5%)」が最も多く、「医療機関の職員(医師、看護師、医療相談員など)(43.6%)」、「友人・知人(33.3%)」が続いている。(図表1-8-2)



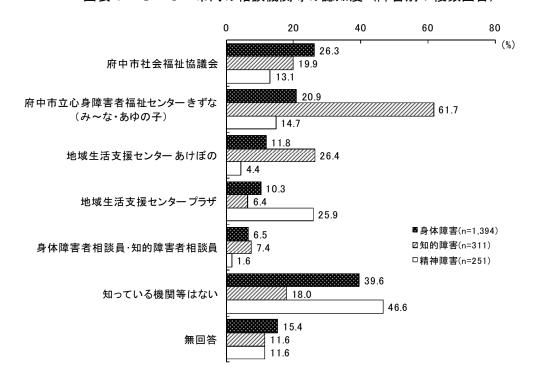
図表1-8-2 相談先(障害別:複数回答) <相談する人がいると回答した人>

(3) 市内の相談機関等の認知度(問15)

市内の相談機関等の認知度は、身体障害者は、「知っている機関等はない」が 39.6%となっている。知っている機関は「府中市社会福祉協議会 (26.3%)」が最も多くなっている。

知的障害者は、「府中市立心身障害者福祉センター きずな (み~な・あゆの子) (61.7%)」 が最も多く、「地域生活支援センター あけぼの (26.4%)」 が続いている。 「知っている機関等はない」が 18.0%となっている。

精神障害者は、「知っている機関等はない」が 46.6%となっている。知っている機関は「地域生活支援センター プラザ (25.9%)」が最も多くなっている。(図表1-8-3)



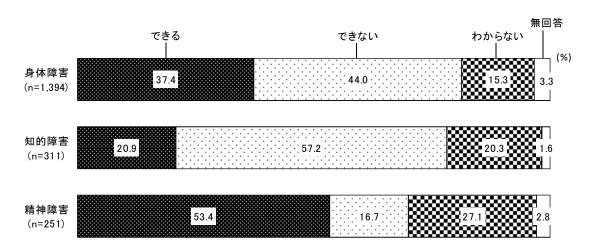
図表1-8-3 市内の相談機関等の認知度(障害別:複数回答)

9 防災・防犯

(1) 緊急時の単独避難(問16)

緊急時の単独避難は、身体障害者は、「できる」が 37.4%、「できない」が 44.0%となって いる。

知的障害者は、「できる」が 20.9%、「できない」が 57.2%となっている。 精神障害者は、「できる」が 53.4%、「できない」が 16.7%となっている。(図表 1 - 9 - 1)



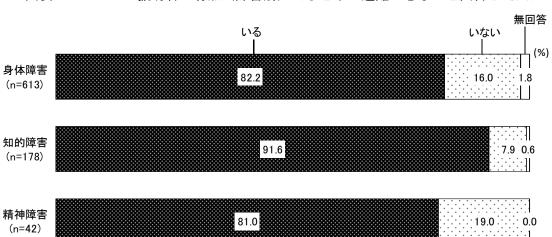
図表 1-9-1 緊急時の単独避難 (障害別)

(2)援助者の有無(問16-1)

ひとりで避難できないと回答した人に、援助者の有無をたずねたところ、身体障害者は、「いる」が82.2%、「いない」が16.0%となっている。

知的障害者は、「いる」が91.6%、「いない」が7.9%となっている。

精神障害者は、「いる」が81.0%、「いない」が19.0%となっている。(図表1-9-2)



図表1-9-2 援助者の有無(障害別) くひとりで避難できないと回答した人>

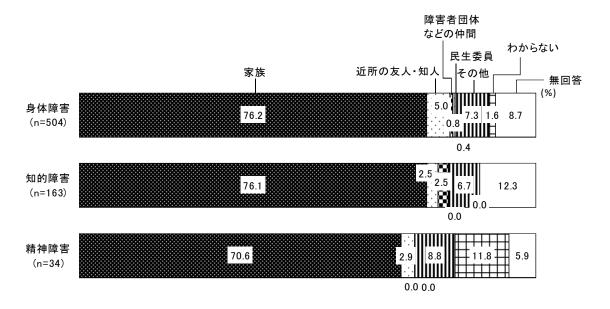
(3) 具体的な援助者(問16-2)

ひとりで避難できない人で援助者がいると回答した人に、具体的な援助者をたずねたところ、身体障害者は、「家族」が 76.2%である。

知的障害者は、「家族」が76.1%である。

精神障害者は、「家族」が70.6%である。(図表1-9-3)

図表 1-9-3 具体的な援助者 <ひとりで避難できない人で、援助者がいると回答した人> (障害別)

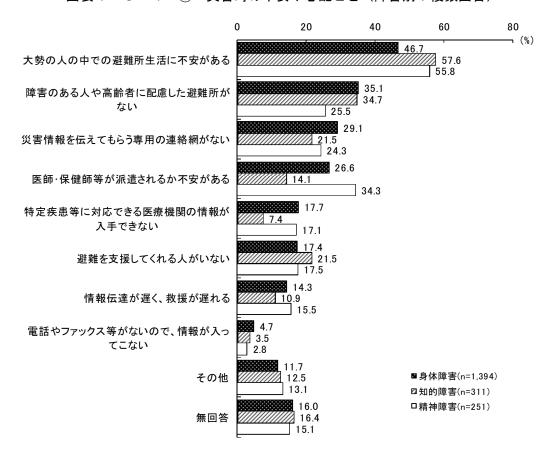


(4) 災害時の不安や心配ごと(問17)

災害時の不安や心配ごとは、身体障害者は、「大勢の人の中での避難所生活に不安がある (46.7%)」が最も多く、「障害のある人や高齢者に配慮した避難所がない (35.1%)」が続いている。

知的障害者は、「大勢の人の中での避難所生活に不安がある(57.6%)」が最も多く、「障害のある人や高齢者に配慮した避難所がない(34.7%)」が続いている。

精神障害者は、「大勢の人の中での避難所生活に不安がある(55.8%)」が最も多く、「医師・保健師等が派遣されるか不安(34.3%)」が続いている。(図表1-9-4-①)



図表 1 - 9 - 4 - ① 災害時の不安や心配ごと (障害別:複数回答)

身体障害者を障害程度別にみると、障害の程度が重くなるほど、避難所や医療に対する不 安の割合は高くなっている。

単独避難ができるかどうか別にみると、単独避難ができない人、できるかわからない人は、避難所への不安も多いが、「避難を支援してくれる人がいない」も 20%台と多くなっている。 (図表 1-9-4-2)

図表 1-9-4-② 災害時の不安や心配ごと (身体障害者:障害程度別、単独避難の可・不可別:複数回答)

															(%)
						生大	に障	専 災	れ医	き医特	が避	遅情	いい電	そ	無
						活勢	配害	用害	る師	な療定	い難	れ報	の話	の	回
						にの	慮の	の情	か・	い機疾	なを	る伝	でや	他	答
						不人	しあ	連報	不 保	関患	い支	達	情フ		
						安の	たる	絡を	安 健	の等	援	が	報ァ		
						が中	避人	網伝	が師	情に	し	遅	がッ		
						あで	難や	がえ	あ等	報 対	て	<	入り		
						るの	所高	なて	るが	が応	<	`	っス		
						避	が 齢	いも	派	入で	れ	救	て等		
						難	な者	b	遣	手き	る	援	こが		
						所	い等	う	さ	でる	人	が	なな		
全				体 (n=	1,394)	46.7	35.1	29.1	26.6	17.7	17.4	14.3	4.7	11.7	16.0
	障	重		度 (n=	715)	50.2	40.1	28.8	31.3	22.4	18.9	15.5	5.7	11.3	13.6
別	害 程	中		度 (n=	494)	43.5	31.8	32.2	23.7	13.8	17.2	13.2	3.8	11.7	16.6
		軽		度 (n=	125)	42.4	26.4	24.8	17.6	9.6	12.8	13.6	3.2	16.0	18.4
	の単	で	き	る (n=	522)	40.8	26.6	28.2	22.2	20.3	8.2	13.6	3.6	10.9	16.3
可別	可 独 • 避	で	きな	い (n=	613)	52.7	44.0	29.2	31.5	15.8	23.8	14.7	4.4	11.1	13.7
		わ	からな	しヽ(n=	213)	50.7	36.2	34.7	27.2	19.2	23.5	17.4	8.9	16.0	10.8

知的障害者を障害程度別にみると、障害の程度が重くなるほど、避難所や医療に対する不 安の割合は高くなっている。

単独避難ができるかどうか別にみると、単独避難ができない人、できるかわからない人は、 「避難を支援してくれる人がいない」が多くなっている。(図表1-9-4-③)

図表 1 - 9 - 4 - ③ 災害時の不安や心配ごと (知的障害者:障害程度別、単独避難の可・不可:複数回答)

															(%)
						生大	に障	専 災	れ医	き医特	が避	遅情	いい電	そ	無
						活勢	配害	用害	る師	な療定	い難	れ報	の話	の	
						にの	慮の	の情	か・	い機疾	なを	る伝	でや	他	答
						不人	しあ	連 報	不 保	関患	い支	達	情フ		
						安の	たる	絡を	安 健	の等	援	が	報ァ		
						が中	避人	網伝	が師	情に	し	遅	がッ		
						あで	難や	がえ	あ等	報対	て	<	入り		
						るの	所高	なて	るが	が応	<	`	っス		
						避	が齢	いも	派	入で	れ	救	て等		
						難	な者	6	遣	手き	る	援	こが		
						所	い等	う	さ	でる	人	が	なな		
全				体 (n=	311)	57.6	34.7	21.5	14.1	7.4	21.5	10.9	3.5	12.5	16.4
	障	重		度 (n=	92)	72.8	63.0	17.4	21.7	12.0	18.5	12.0	1.1	18.5	10.9
別	害程	中		度(n=	69)	55.1	26.1	24.6	11.6	5.8	20.3	4.3	1.4	13.0	17.4
		軽		度 (n=	138)	50.0	23.2	23.9	10.9	5.1	26.1	14.5	6.5	9.4	16.7
	の単	で	き	る (n=	65)	43.1	20.0	27.7	9.2	4.6	12.3	6.2	6.2	7.7	16.9
可別	可 独 • 避	で	きな	い (n=	178)	62.4	44.4	16.3	16.9	7.9	20.8	11.2	1.1	15.2	16.3
		わ	からな	: い (n=	63)	61.9	23.8	31.7	11.1	7.9	34.9	15.9	7.9	11.1	11.1

精神障害者を単独避難ができるかどうか別にみると、単独避難ができない人、できるかわからない人は、避難所、医療、避難支援、情報など多くの困りごと・不安を感じている人が多い。(図表 1-9-4-4)

図表 1 - 9 - 4 - ④ 災害時の不安や心配ごと (精神障害者:障害程度別、単独避難の可・不可別:複数回答)

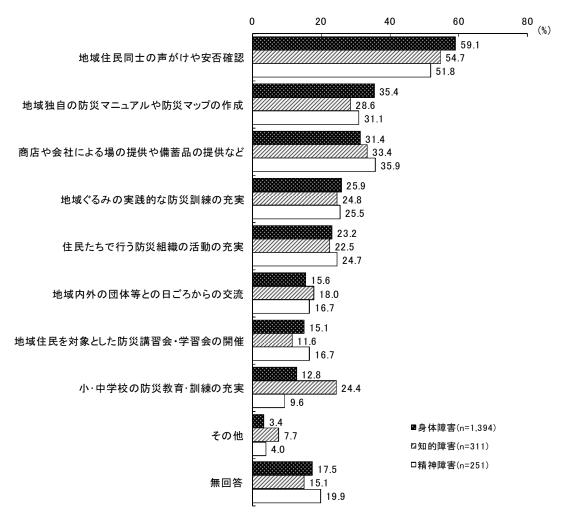
														(%)
					生 大 活 勢	に 障 配 害	専 災 用 害	れ 医 る 師	き医特な療定	が 避 い 難	遅 情 れ 報	いい電 の話	その	無回
					にの	慮の	の情	か・	い機疾	なを	る伝	でや	他	答
					不人	しあ	連報	不 保	関患	い支	達	情フ		
					安の	たる	絡を	安 健	の等	援	が	報ァ		
					が中	避人	網伝	が師	情に	し	遅	がッ		
					あで	難や	がえ	あ等	報対	て	<	入り		
					るの	所高	なて	るが	が応	<	`	っス		
					避	が 齢	いも	派	入で	れ	救	て等		
					難	な者	6	遣	手き	る	援	こが		
					所	い等	う	さ	でる	人	が	なな		
全			体 (n=	251)	55.8	25.5	24.3	34.3	17.1	17.5	15.5	2.8	13.1	15.1
障	1		級 (n=	12)	58.3	33.3	16.7	25.0	25.0	8.3	16.7	16.7	25.0	25.0
割 別 程	2		級 (n=	130)	60.8	23.8	26.2	35.4	15.4	20.0	13.1	2.3	11.5	16.2
度	3		級 (n=	80)	50.0	25.0	25.0	41.3	20.0	17.5	17.5	1.3	15.0	7.5
_ の <u>i</u>		き	る (n=	134)	48.5	17.9	20.9	30.6	15.7	11.9	12.7	0.0	14.9	17.2
可可犯	卑で	きな	い (n=	42)	52.4	42.9	31.0	45.2	21.4	23.8	19.0	11.9	14.3	11.9
		からな	: [,\ (n=	68)	76.5	32.4	29.4	38.2	19.1	26.5	19.1	2.9	10.3	7.4

(5) 災害時に協働で進める地域の支え合い(問18)

災害に備えて市民や企業等が行政と協働で取り組むとよいものは、身体障害者は、「地域住民同士の声がけや安否確認(59.1%)」が最も多く、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成(35.4%)」、「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など(31.4%)」が続いている。

知的障害者は、「地域住民同士の声がけや安否確認 (54.7%)」が最も多く、「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など (33.4%)」、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成 (28.6%)」が続いている。

精神障害者は、「地域住民同士の声がけや安否確認(51.8%)」が最も多く、「商店や会社による場の提供や備蓄品の提供など(35.9%)」、「地域独自の防災マニュアルや防災マップの作成(31.1%)」が続いている。(図表 1-9-5)



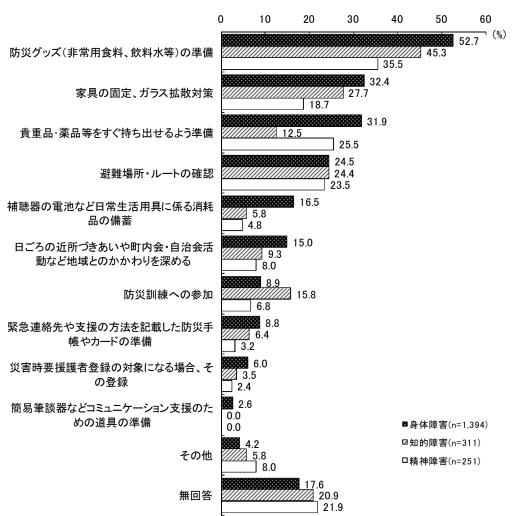
図表1-9-5 災害時に協働で進める地域の支え合い (障害別:複数回答)

(6) 災害対策としてふだんから行っていること(問19)

災害対策としてふだんから行っていることは、身体障害者は、「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備(52.7%)」が最も多く、「家具の固定、ガラス拡散対策(32.4%)」、「貴重品・薬品等をすぐ持ち出せるよう準備(31.9%)」が続いている。

知的障害者は、「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備(45.3%)」が最も多く、「家 具の固定、ガラス拡散対策(27.7%)」、「避難場所・ルートの確認(24.4%)」が続いている。

精神障害者は、「防災グッズ(非常用食料、飲料水等)の準備(35.5%)」が最も多く、「貴重品・薬品等をすぐ持ち出せるよう準備(25.5%)」、「避難場所・ルートの確認(23.5%)」が続いている。(図表1-9-6)



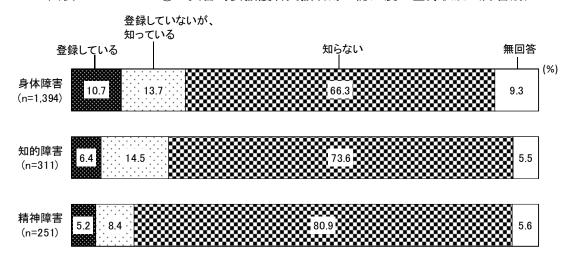
図表1-9-6 災害対策としてふだんから行っていること (障害別:複数回答)

(7) 災害時要援護者支援名簿の認知度・登録状況(問20)

災害時要援護者支援名簿の認知度・登録状況は、身体障害者は、「登録している」が 10.7%、「登録していないが、知っている」が 13.7%、「知らない」が 66.3%となっている。

知的障害者は、「登録している」が 6.4%、「登録していないが、知っている」が 14.5%、「知らない」が 73.6%となっている。

精神障害者は、「登録している」が 5.2%、「登録していないが、知っている」が 8.4%、「知らない」が 80.9%となっている。(図表 1-9-7-①)



図表 1-9-7-① 災害時要援護者支援名簿の認知度・登録状況 (障害別)

身体障害者を単独避難ができるかどうか別にみると、できない人で登録しているのは 15.0%にとどまっている。(図表 1-9-7-2)

図表 1 - 9 - 7 - ② 災害時要援護者支援名簿の認知度・登録状況 (身体障害者:単独避難の可・不可別)

											(%)
								登録している	知っている登録していないが、	知らない	無回答
全					体	(n=	1,394)	10.7	13.7	66.3	9.3
	の i		で	き	る	(n=	522)	5.6	13.0	78.0	3.4
可別	可 ?	独避	で	きな	こい	(n=	613)	15.0	16.6	58.4	10.0
23.3			わ	から	ない	(n=	213)	12.7	9.4	68.1	9.9

知的障害者を単独避難ができるかどうか別にみると、できない人で登録しているのは 9.0%にとどまっている。(図表1-9-7-3)

図表 1 - 9 - 7 - ③ 災害時要援護者支援名簿の認知度・登録状況 (知的障害者:単独避難の可・不可別)

														(%)	_
										登録している	7 t	登録していないが、		無回答	
全						体	(n=	31	1)	6.4		14.5	73.6	5.5	
	<u>ග</u>		で	=	<u> </u>	る	(n=	6	5)	4.6		10.8	81.5	3.1	
可別	可	独避	で	き	な	ſ١	(n=	17	(8)	9.0		19.7	65.2	6.2	
733			わ	から	うな	ſ١	(n=	6	3)	0.0		4.8	93.7	1.6	

精神障害者を単独避難ができるかどうか別にみると、できない人で登録しているのは 11.9%にとどまっている。(図表1-9-7-4)

図表 1 - 9 - 7 - ④ 災害時要援護者支援名簿の認知度・登録状況 (精神障害者:単独避難の可・不可別)

														(%)
										登録している	って し	登録していないが、	知らない	無回答
全						体	(n=	2	251)	5.2		8.4	80.9	5.6
	の		で	=	ŧ	る	(n=	_	134)	3.7		9.7	85.1	1.5
可別	可 •	独避	で	き	な	い	(n=		42)	11.9		9.5	66.7	11.9
23-3	不		ゎ	かり	らな	L١	(n=		68)	4.4		4.4	88.2	2.9

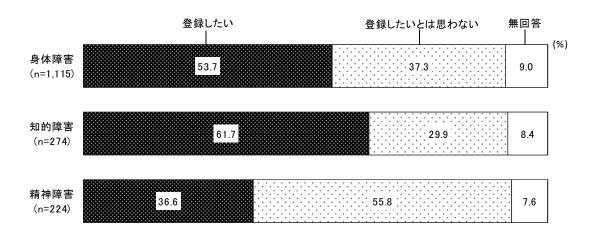
(8) 災害時要援護者支援名簿の登録意向(問20-1)

災害時要援護者支援名簿に登録していない人に、登録意向をたずねたところ、身体障害者は、「登録したい」が53.7%、「登録したいとは思わない」が37.3%となっている。

知的障害者は、「登録したい」が 61.7%、「登録したいとは思わない」が 29.9%となっている。

精神障害者は、「登録したい」が 36.6%、「登録したいとは思わない」が 55.8%となっている。(図表 1-9-8-1)

図表 1 - 9 - 8 - ① 災害時要援護者支援名簿の登録意向(障害別) <災害時要援護者支援名簿に登録していない人>



身体障害者を単独避難ができるかどうか別にみると、できない人では「登録したい」が 66.7%である。できる人でも「登録したい」は 41.7%となっている。(図表 1-9-8-2)

図表 1 - 9 - 8 - ② 災害時要援護者支援名簿の登録意向 (身体障害者:単独避難の可・不可別) <災害時要援護者名簿に登録していない人>

													(%)
									登録したい		思わないとは	# 匠 名	1
全						体	(n=	1,115)	53	3.7	37.3		9.0
	<u>ග</u>		で	-	き	る	(n=	475)	41	.7	52.4		5.9
可別	可 •	独避	で	き	な	い	(n=	460)	66	6.7	23.3		10.0
,,,	不	難	ゎ	か	らな	い	(n=	165)	52	2.7	33.3		13.9

知的障害者を単独避難ができるかどうか別にみると、できない人では「登録したい」が 67.5%である。できる人でも「登録したい」は 55.0%となっている。(図表 1-9-8-3)

図表 1 - 9 - 8 - ③ 災害時要援護者支援名簿の登録意向 (知的障害者:単独避難の可・不可別) <災害時要援護者名簿に登録していない人>

											(%)
									登録したい	思わないとは	無回答
全						体	(n=	274)	61.7	29.9	8.4
	の i		で		き	る	(n=	60)	55.0	38.3	6.7
可別	可 3	虫壁	で	き	な	い	(n=	151)	67.5	25.2	7.3
,,,	不美		わ	か	らな	い	(n=	62)	53.2	33.9	12.9

精神障害者を単独避難ができるかどうか別にみると、できない人では「登録したい」が 43.8% である。できる人でも「登録したい」は 31.5% となっている。(図表 1-9-8-4)

図表 1 - 9 - 8 - ④ 災害時要援護者支援名簿の登録意向 (精神障害者:単独避難の可・不可別) <災害時要援護者名簿に登録していない人>

															(%)
										登録した し	k	思わない	録	無回答	
全						体	(n=	22	24)		36.6		55.8		7.6
	の当	- 1	で	=	き	る	(n=	12	27)		31.5		62.2		6.3
可別	可犯		で	き	な	い	(n=	(32)		43.8		43.8	1	2.5
,,,			ゎ	か	らな	۲١	(n=	(63)		44.4		50.8		4.8

(9)犯罪被害への不安(問21)

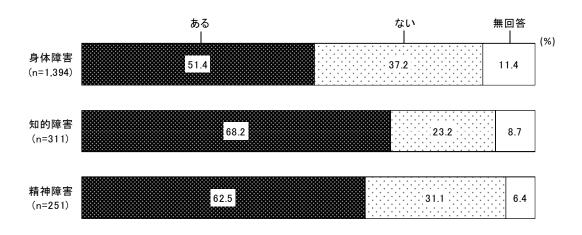
犯罪被害への不安は、身体障害者は、「ある」が51.4%となっている。

知的障害者は、「ある」が 68.2%となっている

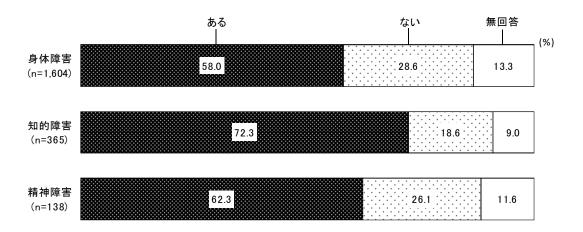
精神障害者は、「ある」が62.5%となっている。(図表1-9-9-①)

前回調査と比較すると、身体障害者、知的障害者で「ある」と回答する割合が低くなっている。(図表 1-9-9-①、②)

図表 1-9-9-① 犯罪被害への不安(障害別)



図表 1-9-9-② 犯罪被害への不安(障害別)【平成 19 年度調査】

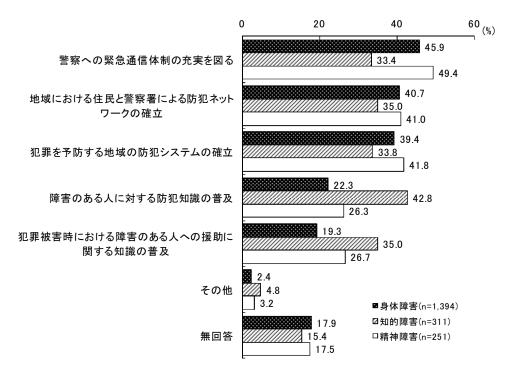


(10) 重視する防犯対策(問 22)

重視する防犯対策は、身体障害者は、「警察への緊急通信体制の充実を図る(45.9%)」が最も多く、「地域における住民と警察署による防犯ネットワークの確立(40.7%)」、「犯罪を予防する地域の防犯システムの確立(39.4%)」が続いている。

知的障害者は、「障害のある人に対する防犯知識の普及(42.8%)」が最も多く、「地域における住民と警察署による防犯ネットワークの確立(35.0%)」、「犯罪被害時における障害のある人への援助に関する知識の普及(35.0%)」が続いている。

精神障害者は、「警察への緊急通信体制の充実を図る(49.4%)」が最も多く、「犯罪を予防する地域の防犯システムの確立(41.8%)」、「地域における住民と警察署による防犯ネットワークの確立(41.0%)」が続いている。(図表1-9-10)



図表 1 - 9 - 10 重視する防犯対策(障害別:複数回答)

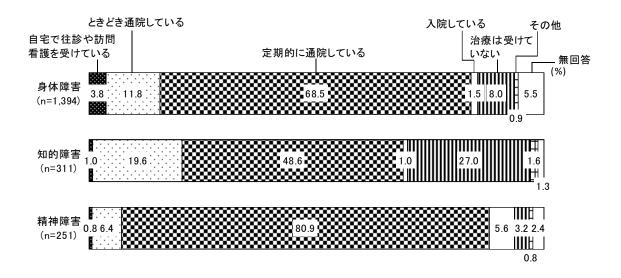
10 医療

(1) 現在受けている医療(問23)

現在受けている医療は、身体障害者は、「定期的に通院している (68.5%)」、「ときどき通院している (11.8%)」、「自宅で往診や訪問看護を受けている (3.8%)」を合計すると 84.1% となっている。

知的障害者は、「定期的に通院している (48.6%)」、「ときどき通院している (19.6%)」、「自宅で往診や訪問看護を受けている (1.0%)」を合計すると 69.2%となっている。「治療は受けていない」は 27.0%となっている。

精神障害者は、「定期的に通院している(80.9%)」、「ときどき通院している(6.4%)」、「自宅で往診や訪問看護を受けている(0.8%)」を合計すると 88.1%となっている。(図表 1-10-1)



図表 1-10-1 現在受けている医療(障害別)

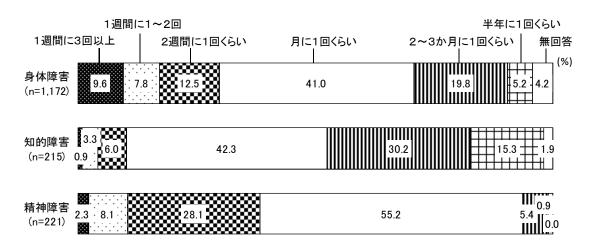
(2) 通院回数(問23-1)

医師の治療を受けていると回答した人に、往診または通院の回数をたずねたところ、身体障害者は、「月に1回くらい(41.0%)」が最も多く、「 $2\sim3$ か月に1回くらい(19.8%)」が続いている。

知的障害者は、「月に1回くらい(42.3%)」が最も多く、「 $2\sim3$ か月に1回くらい(30.2%)」が続いている。

精神障害者は、「月に1回くらい(55.2%)」が最も多く、「2週間に1回くらい(28.1%)」が続いている。(図表1-10-2)

図表 1-10-2 通院回数(障害別) <医師の治療を受けていると回答した人>

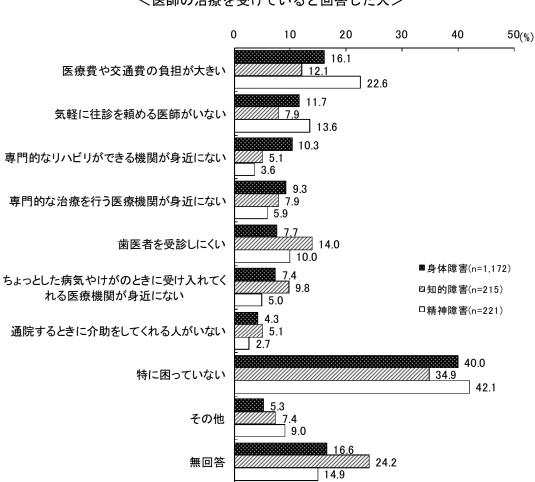


(3) 通院での困りごと(問23-2)

医師の治療を受けていると回答した人に、通院などでの困りごとをたずねたところ、身体障害者は、「特に困っていない」が40.0%となっている。困っていることは、「医療費や交通費の負担が大きい(16.1%)」が最も多くなっている。

知的障害者は、「特に困っていない」が 34.9%となっている。困っていることは、「歯医者を受診しにくい (14.0%)」が最も多くなっている。

精神障害者は、「特に困っていない」が 42.1%となっている。困っていることは、「医療費や交通費の負担が大きい(22.6%)」が最も多く、「気軽に往診を頼める医師がいない(13.6%)」が続いている。(図表 1-10-3)



図表 1-10-3 通院での困りごと(障害別:複数回答) <医師の治療を受けていると回答した人>

11 共生社会

(1) 市民のノーマライゼーションの理解(問24)

ノーマライゼーションが市民に十分理解されていると思うかについては、身体障害者は、 「はい」が 24.4%となっている。

知的障害者は、「はい」が11.3%となっている。

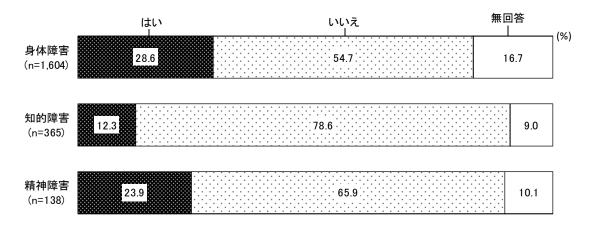
精神障害者は、「はい」が22.3%となっている。(図表1-11-1-①)

前回調査と比較すると、3 障害ともに「はい」の割合が低くなっている。(図表 1-11-1-1 -(1)、②)

はい 無回答 いいえ (%) 身体障害 24.4 61.1 14.5 (n=1,394)知的障害 11.3 76.2 12.5 (n=311)精神障害 22.3 67.3 10.4 (n=251)

図表 1-11-1-① 市民のノーマライゼーションの理解(障害別)

図表 1-11-1-2 市民のノーマライゼーションの理解(障害別)【平成 19 年度調査】



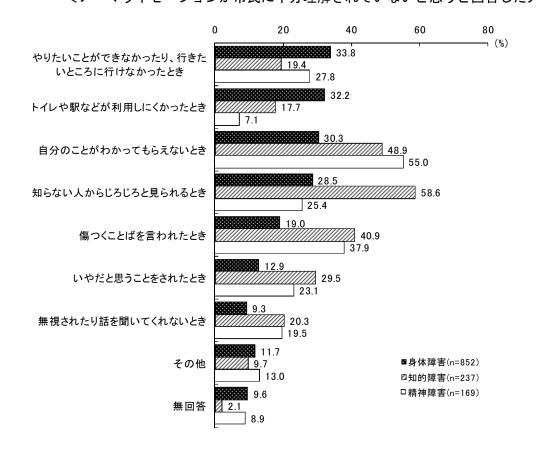
(2) ノーマライゼーションが理解されていないと感じるとき(問24-1)

ノーマライゼーションが市民に十分理解されていないと思うと回答した人に、どのような時に感じるかたずねたところ、身体障害者は、「やりたいことができなかったり、行きたいところに行けなかったとき(33.8%)」が最も多く、「トイレや駅などが利用しにくかったとき(32.2%)」、「自分のことがわかってもらえないとき(30.3%)」が続いている。

知的障害者は、「知らない人からじろじろと見られるとき (58.6%)」が最も多く、「自分のことがわかってもらえないとき (48.9%)」、「傷つくことばを言われたとき (40.9%)」が続いている。

精神障害者は、「自分のことがわかってもらえないとき (55.0%)」が最も多く、「傷つくことばを言われたとき (37.9%)」、「やりたいことができなかったり、行きたいところに行けなかったとき (27.8%)」が続いている。(図表 1-11-2)

図表 1-11-2 ノーマライゼーションが理解されていないと感じるとき (障害別:複数回答(3つまで)) <ノーマライゼーションが市民に十分理解されていないと思うと回答した人>

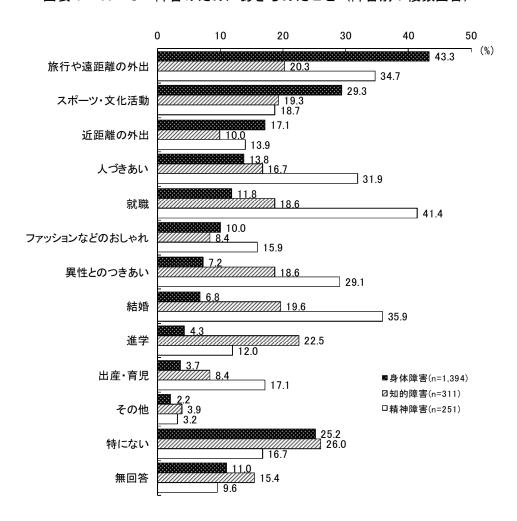


(3) 障害のためにあきらめたこと(問25)

障害のためにあきらめたことは、身体障害者は、「旅行や遠距離の外出(43.3%)」が最も 多く、「スポーツ・文化活動(29.3%)」が続いている。

知的障害者は、「進学(22.5%)」が最も多く、「旅行や遠距離の外出(20.3%)」、「結婚(19.6%)」が続いている。

精神障害者は、「就職 (41.4%)」が最も多く、「結婚 (35.9%)」、「旅行や遠距離の外出 (34.7%)」、「人づきあい (31.9%)」が続いている。(図表 1-11-3)



図表 1-11-3 障害のためにあきらめたこと (障害別:複数回答)

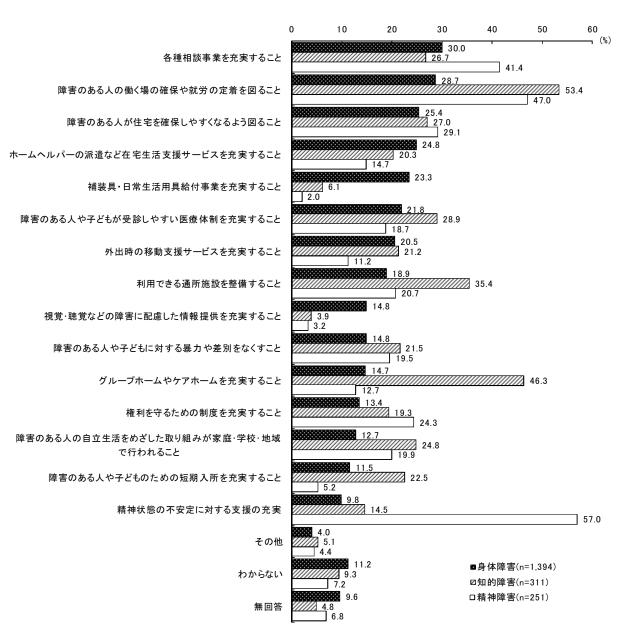
12 施策

(1) 充実を望む施策(問26)

市に充実を望む施策は、身体障害者は、「各種相談事業を充実すること (30.0%)」が最も 多く、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること (28.7%)」が続いている。

知的障害者は、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること (53.4%)」が最も 多く、「グループホームやケアホームを充実すること (46.3%)」が続いている。

精神障害者は、「精神状態の不安定に対する支援の充実(57.0%)」が最も多く、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること(47.0%)」が続いている。(図表1-12-1-1



前回調査と比較すると、今回調査が平成 19 年調査を 5 ポイント以上上回っている項目は、身体障害者で「利用できる通所施設を整備すること」、「障害のある人や子どもに対する暴力や差別をなくすこと」、知的障害者で「利用できる通所施設を整備すること」、精神障害者で「各種相談事業を充実すること」となっている。(図表 1-12-1-2)

図表 1-12-1-② 充実を望む施策(障害別:複数回答(5つまで))【前回比較】

																									(%)
							各種相談事業を充実すること	を図ること障害のある人の働く場の確保や就労の定着	うに図ること障害のある人が住宅を確保しやすくなるよ	サービスを充実することホームヘルパーの派遣など在宅生活支援	こと 補装具・日常生活用具給付事業を充実する	体制を充実すること障害のある人や子どもが受診しやすい医療	外出時の移動支援サ―ビスを充実すること	利用できる通所施設を整備すること	を充実すること視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供	をなくすこと障害のある人や子どもに対する暴力や差別	グループホームを充実すること	ケアホームを充実すること	権利を守るための制度を充実すること	みが家庭・学校・地域で行われること障害のある人の自立生活をめざした取り組	充実すること障害のある人や子どものための短期入所を	精神状態の不安定に対する支援の充実	その他	わからない	無回答
身体	今		調	査	(n=	1,394)	30.0	28.7	25.4	24.8	23.3	21.8	20.5	18.9	14.8	14.8	14	4.7	13.4	12.7	11.5	9.8	4.0	11.2	9.6
障 害	平月	뷫 19 ፟	年度調	査	(n=	1,604)	28.2	24.1	20.7	28.5	19.2	24.4	20.9	12.4	12.1	9.8	4.7	9.2	12.3	11.8	8.5	_	4.1	10.0	15.5
知 的	今	回	調	査	(n=	311)	26.7	53.4	27.0	20.3	6.1	28.9	21.2	35.4	3.9	21.5	46	6.3	19.3	24.8	22.5	14.5	5.1	9.3	4.8
障 害	平月	붗 19 ⁴	年度調	査	(n=	365)	28.5	51.2	23.0	22.5	6.6	35.9	25.2	25.5	3.8	17.8	31.0	11.8	18.9	29.9	21.9	_	4.7	5.5	7.7
精神	今	回	調	査	(n=	251)	41.4	47.0	29.1	14.7	2.0	18.7	11.2	20.7	3.2	19.5	12	2.7	24.3	19.9	5.2	57.0	4.4	7.2	6.8
障 害	平瓦	붗 19 ፟	年度調	査	(n=	138)	31.9	50.0	45.7	18.1	1.4	14.5	6.5	29.0	4.3	14.5	28.3	9.4	30.4	17.4	8.0	_	4.3	4.3	10.1

身体障害者を年代別にみると、17 歳未満、18~39 歳、40~64 歳では、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること」が最も多くなっており、特に17 歳未満ではその割合は61.7%となっている。

障害程度別にみると、障害の程度が重くなるほど、住宅確保、各種サービスの充実、医療体制の充実への希望が多くなっている。(図表 1-12-1-3)

図表 1-12-1-③ 充実を望む施策 (身体障害者:年代別、障害程度別:複数回答(5つまで))

																						(%)
					各	図障	図障	ビホ	と補	制障	外	利	充 視	な障	こグ	権	が障	実障	精	そ	ゎ	無
					種	る害	る害	スー	装	を害	出	用	実覚	く害	とル	利	家 害	す害	神	の	か	回
					相	この	この	をム	具	充の	時	で	す・	すの	l I	を	庭の	るの	状	他	6	答
					談	とあ	とあ	充へ		実あ	の	き	る聴	こあ	プ	守	・あ	こあ	態		な	
					事業	る	る	実ル すパ	日常	する	移動	る 通	こ覚とな	とる	ホー	るた	学る 校人	とる	の 不		い	
					を	の	人 が	るし	生	る人	支	所	ے اخ	人や	ا ل	め	1X A	人や	安			
					充	働	住	この	活	と子	援	施	0	子	や	o o	地自	子	定			
					実	ζ.	宅	と派	用	ا نے	#	設	障	ځ	ケ	制	域立	اخ ا	1=			
					す	場	を	遣	具	ŧ	- 1	を	害	ŧ	ア	度	で生	ŧ	対			
					る	の	確	な	給	が	ビ	整	に	15	ホ	を	行活	の	す			
					=	確	保	خ خ	付	受	ス	備	配	対	!	充	わを	た	る			
					ا ع	保	しゃ	在 宅	事業	診	を	すっ	慮	すっ		実 す	れめ	80	支援			
						や就	す	生生	を	しゃ	充実	るこ	した	る 暴	を 充	9 る	るざし	の 短	抜の			
						労	\ \ \	活	充	す	す	ے	情	力	実	- G	とた	期	充			
						の	な	支	実	Ń	る	_	報	ゃ	す	ے	取	入	実			
						定	る	援	す	医	z l		提	差	る		IJ	所				
						着	ょ	サ	る	療	٤		供	別			組	を				
_						を	う		こ	体			を	を			み	充				
全		ſ	ᡮ (n=	1,394)	30.0	28.7	25.4	24.8	23.3	21.8	20.5	18.9	14.8	14.8	14.7	13.4	12.7	11.5	9.8	4.0	11.2	9.6
_	17	歳未	莇(n=	81)	28.4	61.7	11.1	22.2	35.8	27.2	24.7	38.3	8.6	32.1	28.4	16.0	29.6	27.2	3.7	8.6	6.2	1.2
年代	18	~ 39 肩	麦 (n=	105)	34.3	37.1	31.4	20.0	30.5	36.2	25.7	22.9	22.9	20.0	27.6	11.4	22.9	31.4	11.4	5.7	3.8	4.8
別	40	~ 64 前	麦 (n=	371)	32.3	43.1	35.6	20.2	25.1	24.3	18.3	13.5	17.8	18.9	11.1	19.1	15.1	7.3	13.5	4.0	8.4	5.7
	65	歳以」	L (n=	813)	28.8	18.3	21.8	27.9	20.3	18.6	20.7	19.3	13.2	10.7	13.3	10.8	8.9	9.5	8.5	3.2	14.1	12.3
_使 障	重	J.	隻 (n=	715)	29.5	29.1	27.4	28.0	22.2	24.8	24.5	19.9	14.4	12.6	16.6	14.3	12.3	14.5	9.7	3.8	10.3	8.8
空害	曲	E	隻 (n=	494)	32.8	27.9	24.5	22.3	25.3	19.2	17.4	17.6	13.2	17.0	10.9	13.2	11.1	7.1	9.7	4.5	12.8	9.5
別程	軽	J.	麦 (n=	125)	25.6	35.2	22.4	20.0	25.6	17.6	12.8	20.0	24.0	17.6	17.6	8.8	18.4	10.4	12.8	4.0	12.0	8.8

知的障害者を年代別にみると、学齢期、中学校卒業後~17歳、18~39歳では、「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること(66.2%、72.7%、55.0%)」が最も多くなっている。

障害程度別にみると、障害の程度が重くなるほど、各種サービスの充実、医療体制の充実 への希望が多くなっている。(図表 1-12-1-4)

図表 1-12-1-④ 充実を望む施策 (知的障害者:年代別、障害程度別:複数回答(5つまで))

																							(70)
						各種相談事業を充実すること	図ること障害のある人の働く場の確保や就労の定着を	図ることで書のある人が住宅を確保しやすくなるよう	ビスを充実することホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サー	と補装具・日常生活用具給付事業を充実するこ	制を充実すること障害のある人や子どもが受診しやすい医療体	外出時の移動支援サービスを充実すること	利用できる通所施設を整備すること	充実すること、視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を	なくすこと障害のある人や子どもに対する暴力や差別を	こと グループホームやケアホームを充実する	権利を守るための制度を充実すること	が家庭・学校・地域で行われること障害のある人の自立生活をめざした取り組み	実することで書のある人や子どものための短期入所を充	精神状態の不安定に対する支援の充実	その他	わからない	無回答
全				体 (n=	311)	26.7	53.4	27.0	20.3	6.1	28.9	21.2	35.4	3.9	21.5	46.3	19.3	24.8	22.5	14.5	5.1	9.3	4.8
	乳	幼	児	期 (n=	11)	27.3	45.5	36.4	9.1	0.0	54.5	18.2	63.6	9.1	54.5	36.4	36.4	36.4	27.3	9.1	18.2	0.0	0.0
1_	学	1	齡	期 (n=	74)	20.3	66.2	14.9	21.6	9.5	33.8	40.5	51.4	4.1	31.1	45.9	20.3	39.2	25.7	12.2	6.8	4.1	2.7
年代	中台	学校 卒	業後~	17歳(n=	22)	27.3	72.7	22.7	18.2	4.5	22.7	13.6	22.7	4.5	18.2	50.0	9.1	22.7	18.2	18.2	0.0	13.6	4.5
別	18	~	39	歳 (n=	129)	31.8	55.0	37.2	20.2	6.2	28.7	14.0	31.8	0.8	20.2	50.4	20.9	21.7	24.0	15.5	6.2	13.2	0.8
	40	~	64	歳 (n=	66)	22.7	33.3	21.2	24.2	4.5	24.2	18.2	28.8	7.6	10.6	42.4	15.2	15.2	18.2	13.6	1.5	6.1	15.2
	65	歳	以	上 (n=	5)	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	40.0	20.0	20.0	20.0	40.0	0.0	40.0	0.0
度電	重			度 (n=	92)	26.1	38.0	21.7	31.5	12.0	48.9	33.7	50.0	3.3	21.7	54.3	15.2	17.4	44.6	8.7	9.8	4.3	5.4
	中			度 (n=	69)	18.8	63.8	23.2	18.8	5.8	29.0	29.0	43.5	2.9	21.7	60.9	18.8	26.1	17.4	13.0	2.9	5.8	2.9
別程	軽			度 (n=	138)	30.4	58.0	32.6	14.5	2.9	17.4	10.9	23.9	5.1	21.7	34.8	21.7	30.4	11.6	19.6	3.6	14.5	3.6

精神障害者を年代別にみると、18~39歳は「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を 図ること (73.8%)」が 70%を超え最も多くなっている。

障害程度別にみると、障害が重くなるほど、通所施設の整備、グループホーム・ケアホームの充実、医療体制の充実、精神状態の不安定に対する支援への希望は多くなっている。 3 級は「障害のある人の働く場の確保や就労の定着を図ること (60.0%)」が最も多くなっている。 (図表 1-12-1-5)

図表 1-12-1-⑤ 充実を望む施策 (精神障害者:年代別、障害程度別:複数回答(5つまで))

																				(%)
			各種相談事業を充実すること	図ることで書の確保や就労の定着を	図ることで書のある人が住宅を確保しやすくなるよう	ビスを充実することホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サー	と補装具・日常生活用具給付事業を充実するこ	制を充実すること障害のある人や子どもが受診しやすい医療体	外出時の移動支援サービスを充実すること	利用できる通所施設を整備すること	充実すること 視覚・聴覚などの障害に配慮した情報提供を	なくすこと障害のある人や子どもに対する暴力や差別を	グループホームやケアホームを充実する	権利を守るための制度を充実すること	が家庭・学校・地域で行われること障害のある人の自立生活をめざした取り組み	実すること障害のある人や子どものための短期入所を充	精神状態の不安定に対する支援の充実	その他	わからない	無回答
全	体 (n=	251)	41.4	47.0	29.1	14.7	2.0	18.7	11.2	20.7	3.2	19.5	12.7	24.3	19.9	5.2	57.0	4.4	7.2	6.8
-	17 歳 未 満 (n=	0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
年代	18 ~ 39 歳 (n=	65)	46.2	73.8	38.5	6.2	0.0	23.1	6.2	16.9	3.1	29.2	13.8	23.1	16.9	7.7	67.7	6.2	3.1	3.1
別	40 ~ 64 歳 (n=	149)	40.3	43.0	27.5	16.1	2.7	19.5	12.8	20.8	2.7	18.1	12.8	24.8	20.8	4.7	55.0	3.4	9.4	5.4
	65歳以上(n=	34)	41.2	14.7	20.6	26.5	2.9	8.8	11.8	26.5	2.9	8.8	11.8	26.5	20.6	2.9	50.0	5.9	5.9	14.7
度實		12)	41.7	33.3	16.7	8.3	0.0		8.3	33.3	0.0			16.7	8.3	8.3	75.0	8.3	8.3	0.0
ᇜ吾		130)	40.8	44.6	33.1	13.8	1.5		12.3	20.8	3.1	18.5		26.2	19.2	6.2	57.7	2.3	9.2	5.4
別 程	3 級 (n=	80)	43.8	60.0	28.8	15.0	2.5	16.3	10.0	17.5	1.3	25.0	12.5	25.0	23.8	2.5	56.3	5.0	3.8	5.0

13 市への要望(問 27)

府中市の障害のある人の施策・地域で暮らし続けるために必要なこと等について、意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、全体で472件の回答を得た。以下、主な記述を掲載する。また、記入者が「本人」以外の場合は【 】内に本人との関係が書かれている。

[身体障害のある人] (312件)

在宅生活支援について(40件)

◇通所系サービス(13件)

- ・ 「きずな」に週2回通所し、機能回復訓練のお世話になっています。とても有意義な時間 を過ごさせていただいています。こんな施設がもっとあればと思います。(男性、45~49 歳)
- ・ 最近高齢のため腰痛故、歩行が困難です。指導等を得て自身でリハビリ等を行える施設等 があれば大変ありがたい。(男性、65歳以上)

◇短期入所(8件)

- ・ 「み~な」のショートステイの制限を緩和してほしい。浴室を改修してほしい。ショートステイ先が足りない。またはあっても制約があって使えない。(女性、55~59歳)【兄弟姉妹】
- ・ 今は本人の親が介護をしています。自分の通院や私の親の介護が必要になったときなどに本人を見守ってくれる人がいなく困っています。緊急時に夜9時まで預かっていただけるところや、親が風邪をひいたときや疲れたときに休みが取れるように気軽に数日預かっていただけるところが必要に感じます。(女性、中学校卒業後~17歳)【父母】

◇訪問系サービス(7件)

・ 現在ヘルパーさんにお世話になっています。家族がやればいいという考え方もあるでしょうが、本人がやりたくてもできないところも助けていただけるような活用しやすい制度にしてほしいと思います。(女性、60~64歳)

◇福祉機器等(5件)

・ 予算が厳しくなったことにより、真に必要とする補装具等の給付が難しくなっている。条 件の緩和をお願いしたい。(男性、60~64歳)

◇その他(7件)

まちづくりについて(40件)

◇道路、歩道(17件)

- ・ 交通量の多い道路の歩道が狭く、車いすでの移動が困難。現在の道路は車優先に設計されており、人にやさしくない。(女性、65歳以上)
- ・ 車いすでの移動時、道の段差などが多く、とても危険。もう少し道を平らにしてほしいで す。(男性、学齢期)【父母】

◇駐車場、駐輪場について(7件)

- ・ 障害者用駐車スペースに車が停められていたり、むやみに停めないようにとカラーコーン が置かれていたりと、設備が整っていても実際には使用できない、使用しづらいことが多 いです。(男性、18~24歳)【父母】
- ・ 自転車が病院、店舗の前、もしくは近くに置けるように障害者用ステッカーを作り配布し、 短時間であれば邪魔でないよう、置くことを許可してほしい。(女性、50~54歳)

◇公共施設のエレベーター等(4件)

・ 駅によってエレベーター、エスカレーターが無いところがある。その充実を希望する。(男 性、65歳以上)

◇ベンチ等(3件)

- ・ 公共の場に椅子を設けてほしい。(女性、65歳以上)【その他】
- ◇自転車のマナー(2件)
- ◇音声付信号機の普及(2件)
- ◇その他(5件)

入所施設、グループホーム・ケアホームの整備について(21件)

- ・ 親が高齢になり、子どもの世話ができなくなったとき、あるいは親が病気になったとき、 すぐ入所できるところが必要である。(男性、35~39歳)【父母】
- ・ 40 歳未満で重度障害の場合、基本自宅での介護となるが限界がある。病状により入所でき る施設や制度を考えてほしい。(男性、25~29歳)【父母】
- 親亡き後のことが心配なのでグループホーム・ケアホームをもっと作っていただきたいと 思います。(男性、40~49歳)【父母】

障害のある人に対する理解について(16件)

- ・ 子どもたちに障害についての認識を持ってほしい。もっと理解を深める何かのきっかけを 作ってほしい。ふれあう企画とか。または、小学校、中学校の授業における障害に関する 勉強に取り組んでほしい。特に手話事業をもっと。(女性、40~44歳)
- ・ 私は内部障害のためバスや電車に乗って移動するとき、見た目で判断されて、席をどいて くれみたいな目でじっと見られて、すごく辛い思いをしました。(女性、45~49歳)

情報提供について(16件)

- ・ 障害者側からの申請主義に偏ることなく、市の方より障害者が受けられる措置全般の情報 (税金のことも含む)を積極的に障害者に発信してほしい。(男性、65歳以上)【子ども】
- ・ 府中市はいろいろなサービスが充実していますが、どうしたら受けられるのか、皆に知らせないと利用することができないと思います。(女性、65歳以上)【その他】

住宅について(15件)

- ・ 高齢障害者は、市・都営住宅に入れない場合、アパートなどに申し込んでもほとんど断られるので困っています。改善をお願いできませんか。(女性、65歳以上)
- ・ 住宅が一番必要だと思います。障害によっては仕事ができない人もいます。生活する上で 家賃が一番かかります。そこを支援してくださると一番助かると思います。(男性、50~54 歳)

生活不安について(15件)

- ・ 現在は夫とふたり暮らしで不自由なく過ごしていますが、ひとりになった時のことを考えると、とても不安です。(女性、65歳以上)
- ・ 親が障害のある息子の面倒を見られなくなる日がそう遠くない年月に訪れるのがわかっていますがどうすればよいのか、とても不安です。(男性、35~39歳)【父母】

障害者施策全般について(15件)

- ・ 障害者への偏見は少なくなったが、高齢化による障害者が増加している。その対応策を市 政に反映させるべきである。手帳所持者のみが障害者ではない。(男性、65歳以上)
- ・ 65 歳を過ぎると障害者制度より介護保険が優先されるとのことですが、歳を取っても障害者に変わりないので、障害者制度を優先してもらいたいと思います。(女性、65 歳以上)

交通手段について(13件)

- ・ 脚に障害があるため、高いところへの昇降がとても不便です。バスを利用したいと思って も各停留所で昇降口を低くする場合 (ノンステップバス) としない場合があり、安心して 利用できません。(女性、65歳以上)
- ・ 障害者をのせるタクシーを増やしてほしい。(女性、65歳以上)【子ども】

就労について(12件)

- ・ 地域で暮らし続けるためには、安定的な収入の確保が必要です。まず第一に地域で最大の 就労先である国・都・市の機関の雇用を拡大すべきだと考えます。(男性、45~49歳)
- ・ 障害のある若者は大変だと思います。就労の機会や雇用の充実が図られればよいと常に思っています。(男性、65歳以上)【配偶者】

医療について(12件)

- ・ 医療費は必要で、けっこう費用がかかります。月に万単位は大変です。以前は医療費が免除されることがあったので、またそれを期待します。(男性、60~64歳)
- ・ 医療が必要な障害者の利用できるサービスが少ない。今後増えてくると思うのですが、充 実させてください。(男性、中学校卒業後~17歳)【父母】

障害のある人への手当や経済的な支援等について(10件)

- ・ 生活補助金をください。よろしくお願いいたします。(男性、55~59歳)
- ・ 障害者の年金をこれ以上下げないでください。そして、もう少し年金額を増やしてください。お願いします。(男性、60~64歳)

災害時の不安について(10件)

- ・ 目が不自由なので災害時は移動するよりも自宅でできる限り安全を確保した方がよいのではと考えています。その場合、情報はきちんと得られるようにお願いしたいです。(女性、65歳以上)
- ・ 防災体制がきちんと機能するのか不安な面がある。(男性、40~44歳)

移動支援、通院介助について(8件)

- ・ 通院するときに介助してくれる人がいないため、2時間かけて姉が来てくれているので、 近くに通院の手助けをしてくれる方がいるとよいと思います。(女性、65歳以上)【兄弟姉 妹】
- ・ 外出するときに無料のヘルパーをつけてほしいです。(女性、35~39歳)【父母】

障害児に対する施策について(8件)

- ・ 就学前の子どもの受け入れ機関が少なすぎる(障害児枠が少なすぎる)障害もひとくくりにせず、その程度によって教育機関や利用施設の制限も考えるべき。、うちの場合、短期(短時間)の施設利用がまったくできず、親の負担も大きかった。たっちなどは健常児だけでなく、障害児(軽度)も受け入れるべき。(男性、学齢期)【父母】
- ・ 中学部以上の放課後児童デイサービスをもっと増やしてください。既に 15~20 人以上待ち のところばかりで困っています。(男性、学齢期)【父母】

市の窓口対応について(7件)

- ・ 市役所の方の知識が低いと思います。電話して質問すると大体わからないことが多く、電 話口で待たされることがあります。(女性、乳幼児期)【父母】
- ・ 府中市役所に困ったことなど相談に行きますが、係の人はとても親切で話が聞こえるまで 話をしてくれるのでとても助かっています。(女性、65歳以上)

交流について(6件)

- 同じような人同士のコミュニケーションを促すような催しがあるとよい。(男性、40~44 歳)
- ・ 障害者同士や健常者との出会いの場を設けていただきたいです。(男性、40~44歳)

教育について(6件)

・ 特別支援学級に通っていますが、学区外のため毎日車で送迎しています。ここ最近、支援 を受けなくてはならない子どもが増えている中、支援級が増えることは聞いていません。 小・中学校(特に中学校)の支援級を増やすべきです。(男性、学齢期)【父母】

地域生活について(6件)

- ・ 高齢の母とのふたり暮らしなので、近所の方が「何かあったら何でも言ってください」と おしゃってくださっていますが、実際は頼みづらいです。公的機関の方がお願いしやすい です。(女性、45~49歳)
- 隣人とのトラブルがある。いやがらせ、いじめ、中傷等を受け、外に出られなくなってしまった。(女性、60~64歳)

文化・スポーツ活動について(6件)

・ 聴覚障害者が気楽に参加できる運動クラブまたはコースを介護予防センターの時間割の中 に週1回くらい設けてほしい。(男性、65歳以上)

謝意や政策への期待等について(5件)

・ 私どものよりよい暮らしのために、いろいろとお世話になります。障害のあるなしにかか わらず、府中市に住んでいてとても幸せに思います。(男性、65歳以上)【子ども】

その他 (25件)

- ・ 障害手帳のサイズを工夫してほしい。一般的なパスケースに入らないため、交通機関を利用する際に大変不便です。(女性、55~59歳)
- ・ 市の指定のゴミ袋について、プラスチック系ゴミ袋と「もやせない」ゴミ袋が同じように 赤色系のゴミ袋となっていますが、見分けにくいので、どちらかの袋を例えば黄色系にし てもらえれば大変ありがたいと思います。(男性、60~64歳)
- アンケートが多すぎる。(男性、60~64歳)

[知的障害のある人] (90件)

入所施設、グループホーム・ケアホームの整備について(19件)

- ・ 将来、親が亡くなった後の生活が非常に心配で不安です。施設に入ったり、グループホームに入ったりするのも大変と聞いているので、そういう点の充実をお願いしたい。(男性、学齢期)【父母】
- ・ 遠方の入所施設に入所中であり、市内に入所施設の建設を希望します。保護者も高齢となり、一時帰宅の送迎が困難です。(女性、40~44歳)【父母】
- ・ 障害のある人が住み慣れた地域で生活していけるようにグループホームやケアホームの充 実を図ってほしい。障害に対する理解を広めてほしい。(男性、18~24歳)【父母】
- ・ 親の高齢化に伴い、グループホーム・ケアホームが必要です。さまざまなタイプの障害に 応じた親亡き後の住まいの場が選べるようになるとよいと思います。(男性、25~29歳)【父 母】

教育について(10件)

- ・ 地域で暮らすためには、学童期に接することが大事だと思う。地域の支援学校に入れて本 当によかったと思っている。中学校の支援学級がないので、柔軟に対応して作ってほしい。 作ってもらえれば、地域と交流を持ち続け、障害者理解への輪を広げていくよう努力する し、そうできると確信している。(男性、学齢期)【父母】
- ・ 学区内の小・中学校に特別支援学級がないため、学区外へ通学せざるを得ない状況であり、 それが地域社会や周囲の同級生とのつながりを持てない原因となっています。全小・中学 校への特別支援学級設置を切に希望します。(女性、学齢期)【父母】

親亡き後の不安について(10件)

- ・ 親が本人を介護不能になった以降、障害者が安心して暮らせる制度の充実を願います。(男性、18~24歳)【父母】
- ・ 親亡き後のことが心配です。地域で暮らし続けるためには、就労や生活について福祉のサポートが必要。今現在は高等部で企業就労をめざして学んでいますが、卒業後のことが漠然と不安です。(男性、中学校卒業後~17歳)

障害のある人に対する理解について (7件)

- ・ 障害のある人が自然にあたりまえに地域にとけこんでいくよう、健常な方にもっと障害者 知っていただく機会があればいいと思います。例えば小さい子どものうちから、そういっ た教育や障害者を知ることで、抵抗なくそういった人とかかわれるように副籍交流なども っと積極的に進めてほしいです。障害者自身、親の意見を聞いていただける機会をたくさ ん作っていただきたいです。(男性、学齢期)【父母】
- ・ いろんな障害について「身近にいないから」とかではなく、一人ひとりみんなが理解をして、あたたかい地域になってほしい。(男性、学齢期)【父母】

学校卒業後の生活について(6件)

- ・ 学齢期後の行き場が極端に少ない。高等部を卒業したら何の猶予もなく社会に出なければ ならない。福祉就労、訓練の場の選択の余地がないのが現状で、重度の子の生活介護は他 市に行っている人が多い。府中市内でも日中活動の場がほしい。(女性、学齢期)【父母】
- ・ 障害のある人はほとんどの場合、18 歳で高校を卒業すると社会に出ます。学校では先生の努力もあって、皆、それぞれのペースで成長しますが、社会に出ると、保護者の考え方によっては成長が止まってしまったり、後退してしまうこともあります。第三者が成人後の長い期間も、しっかりと個別支援計画を立て、その時に見合った支援施設を利用していけるようになればと願います。障害者が自立に向けてステップアップできるようなモデルができれば、支援員、施設も余分な支出がなくなり、限りある財源を大事に使えるのではないでしょうか。(女性、中学校卒業後~17歳)【父母】

就労について(6件)

- ・ 府中市内で働けることが理想(働ける能力のある人は)府中市内の企業、会社、店等で積極的に実習、雇用してもらいたい。(男性、学齢期)【父母】
- ・ 市役所等で知的障害者雇用を増やしてほしい。民間企業への励みのためにも雇用計画を発表してほしい。(女性、中学校卒業後~17歳)【父母】

在宅生活支援サービスについて (5件)

- ・ 訪問入浴サービスの回数を増やしてほしい。文化センターのお風呂に障害者(肢体不自由者)が自由に入れるようにしてほしい。(男性、18~24歳)【父母】
- ・ ショートステイや緊急一時が不足しています。重度の子が入れる施設を近くに作ってほしい。(女性、18~24歳)【父母】

移動支援について(4件)

・ 府中市では福祉サービスが充実したとは言い難く、もう少し移動支援サービスを充実して ほしい。学童クラブに通園していますが、学校から学童までの往復の移動支援が今年から できたのは、とてもうれしかったです。ありがとうございます。(男性、学齢期)【父母】

放課後等デイサービスについて (4件)

・ 就学前までは「あゆの子」など通える療育があるが、小学校に入ってから通える放課後等 デイサービスの施設が少ない。あっても倍率が高く入れなかったり、近くにはなかったり で、なかなか難しい。学校以外にも通えるところがほしい。(女性、学齢期)【父母】

療育について(3件)

・ 子どもが幼児期に療育施設が少なく、民間に頼らざるを得ない状態にありました。幼児期の早期の療育の必要性を実感しているので、障害の程度にかかわらず、誰でも望めば利用できるようにしていただければと思います。(男性、学齢期)【父母】

相談について(2件)

・ 相談機関があっても自ら相談に行くことはなかなかできない。困っているということをなかなか人に言えない(各種手続きや医療、仕事などについても)いきなり初対面の人に相談などできないと思うので、普段から交流ができていれば行きやすい。(男性、18~24歳)【父母】

情報提供について(2件)

・ 障害は人によりさまざまです。自分に何が必要なのかわからないことがあります。こちらからの問いかけではなく、「このようなサービスも利用できますが?」の声かけも必要なのではないでしょうか。(男性、25~29歳)【父母】

交流について(2件)

・ 同じような障害、もしくは同じ年頃の障害者とのネットワークみたいなものがほしい。(女 性、乳幼児期)【父母】

その他(10件)

- ・ 住宅の家賃が高いから、もっと安くしてほしい。(女性、30~34歳)
- ・ 各障害に応じた定期検診制度の充実。(男性、30~34歳)【父母】

[精神障害のある人] (70件)

障害のある人に対する理解について(13件)

- ・ 精神の病は一般の人達にはなかなか理解をしてもらえないこともあり、差別をされることがよくあります。それは精神の病のことをよく知らない=恐いにつながっています。近所の人たちとの交流も図りたいのですが、どうしても偏見されてしまうので、挨拶をこちらからしても無視され、とても嫌な思いをしています。障害者が安心して働いたり、住めるようになれるといいなと思います。そのための支援をどうかお願いします。(女性、35~39歳)
- ・ 共生には「人それぞれ得意な能力もあれば苦手なこともある。障害者は、ちょっと苦手な 面があるだけで、普通の人と基本的に違いはない。」ということを一般の市民の方々に理解 していただくことが重要と思います。充実した府中市の福祉施設を拠点にし、そのまわり (地域)に障害者と普通の人が交流できる「場」のようなものが少しずつ拡充されるとよ いと思います。(男性、60~64歳)

就労について(8件)

- ・ 障害者でも働ける職場を充実させること (ハローワークに府中市で働ける職場がなかった ので) (女性、45~49歳)
- ・ 特に精神障害の不調は理解してくれない人や職場が多々あると思います。それにより仕事

を休むときに風邪と言って休むはめになり、体調管理ができない人だと思われてしまいます。府中市に限らず、全国的に理解してほしいです。(女性、35~39歳)

相談について(7件)

- 困っているときにすぐ相談にのってくれる方が近くにいるとよいと思う。(女性、40~44歳)
- ・ 365 日 24 時間体制で電話相談の体制がほしい。統合失調症は時間を問わず不安がくるので、 もっと相談体制を充実してほしい。「いのちの電話」のような、いつでも支援を受けられる ようにしてほしい。よくある月~金の9時~17時では足りない。(女性、50~54歳)

障害のある人への手当や経済的な支援等について(6件)

- ・ 精神障害2級なのに年金を止められた。生活が苦しいです。(男性、65歳以上)
- ・ 障害年金の受給の申請をするとき、もっと簡略化してほしい。手続きが複雑だと感じる。(女性、45~49歳)

今後の生活への不安について(5件)

- ・ 収入がないので、自立することができない。親も70歳を過ぎ先が不安。(男性、35~39歳)
- ・ 親がいなくなっても、ひとりで自立して生活できるようなバックアップがあるか心配。精神障害が他の障害より厳しい環境にいると思う。(男性、50~54歳)

交通手段について(4件)

・ 府中市でも障害者手帳でバスのサービスが使えるようになったらよい。(男性、60~64歳)

住宅について(4件)

- ・ 家賃の安い家を作ってほしい。年金で生活できる家を作ってほしい。(男性、50~54歳)
- ・ 老朽化した家のリフォーム、耐震化への財政支援の充実。(男性、55~59歳)

障害者施策全般について(4件)

・ 無理なくその人らしく生活できる場づくりを要望します。あと、障害だけでなく、難病の 方にも、この施策の範囲をあててくださると幸いです。(男性、25~29歳)

在宅生活支援サービスについて(3件)

うつのひとのヘルパー制度を充実してほしい。(男性、55~59歳)

入所施設、グループホーム・ケアホームの整備について (3件)

- ・ ケアホームを増やしてほしい。(女性、55~59歳)
- ・ 精神障害者が家族と一緒に住めなくなったときの入所設備、施設の充実を望みます。特に 女性の場合。(女性、35~39歳)

まちづくりについて (3件)

・ 足にパーキンソンがきているので負担が重く、歩道の段差を少なくしてほしい。立体交差 点はいらない。(女性、60~64歳)

医療について(3件)

・ まず自分のことをよくわかってくれる主治医が必要。近くに精神科のある医療機関がある といいと思う。(女性、40~44歳)

地域生活について(2件)

・ 精神の障害のため、プライバシーを守りたい。民生委員の訪問はいらない。(女性、60~64 歳)

家族支援について(2件)

・ 地域に介護 (障害者、高齢者) をしている家族のための場所がほしい。家の近くで、いつでも少しの時間でもちょっと立ち寄れて、悩みを話したり相談が家族同士 (行政ではない)でできる場所。(男性、65歳以上)【配偶者】

その他 (3件)

• 手帳が更新しやすくなるとよりよいと思う。都心で働いているので、都庁で市役所と同じ 手続きができたらうれしい。(男性、25~29歳)

14 保護者の状況

(1) 本人との関係(問28(1))

保護者と本人の関係は、身体障害者は、「父母」が 98.8%となっている。 知的障害者は、「父母」が 100.0%となっている。 (図表 1-14-1)

 身体障害 (n=81)
 98.8
 1.2 (%)

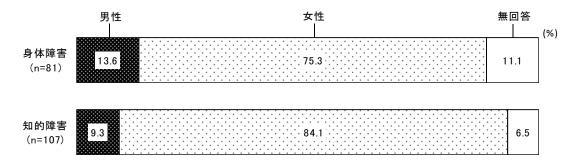
 知的障害 (n=107)
 100.0
 0.0

 0.0
 0.0

図表 1-14-1 本人との関係 (障害別)

(2) 保護者の性別(問28(2))

保護者の性別は、身体障害者は、「女性」が 75.3% となっている。 知的障害者は、「女性」が 84.1% となっている。(図表 1-14-2)

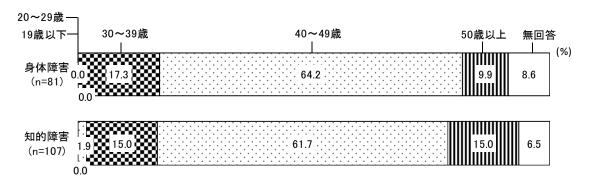


図表 1-14-2 保護者の性別 (障害別)

(3) 保護者の年齢(問28(3))

保護者の年齢は、身体障害者は、「40~49歳(64.2%)」が最も多く、「30~39歳(17.3%)」が続いている。

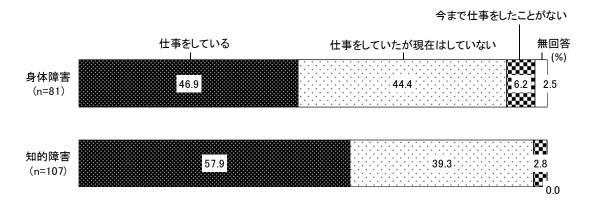
知的障害者は、「 $40\sim49$ 歳(61.7%)」が最も多く、「 $30\sim39$ 歳(15.0%)」、「50 歳以上(15.0%)」が同率で続いている。(図表 1-14-3)



図表 1-14-3 保護者の年齢(障害別)

(4) 保護者の現在の仕事(問29)

保護者の現在の仕事は、身体障害者は、「仕事をしている」が 46.9%となっている。 知的障害者は、「仕事をしている」が 57.9%となっている。 (図表 1-14-4)

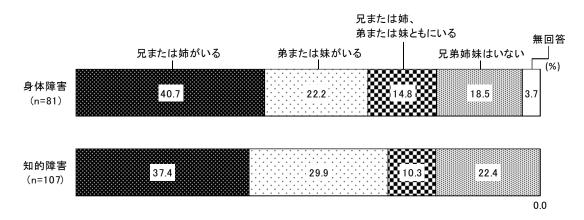


図表 1-14-4 保護者の現在の仕事(障害別)

(5) 兄弟姉妹の有無(問30)

本人の兄弟姉妹の有無は、身体障害者は、「兄または姉がいる」、「弟または妹がいる」、「兄または姉、弟または妹ともにいる」を合計すると、『兄弟姉妹がいる』が 77.7%となっている。「兄弟姉妹はいない」が 18.5%となっている。

知的障害者は、『兄弟姉妹がいる』が 77.6% となっている。「兄弟姉妹はいない」が 22.4% となっている。(図表 1-14-5)

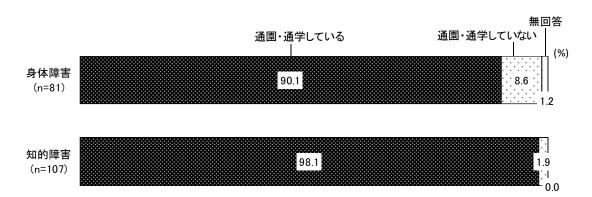


図表 1-14-5 兄弟姉妹の有無(障害別)

(6)通園・通学の状況(問31)

本人の通園・通学の状況は、身体障害者は、「通園・通学している」が 90.1%となっている。

知的障害者は、「通園・通学している」が98.1%となっている。(図表1-14-6)

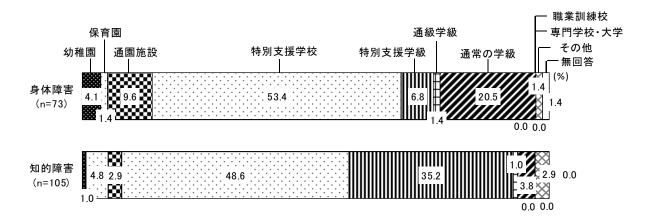


図表 1-14-6 通園・通学の状況 (障害別)

(7) 通園・通学先(問31-1)

通園・通学していると回答した人に、通園・通学先をたずねたところ、身体障害者は、「特別支援学校(53.4%)」が 50%を超えて最も多く、「通常の学級(20.5%)」が続いている。 知的障害者は、「特別支援学校(48.6%)」が最も多く、「特別支援学級(35.2%)」が続いている。(図表 1-14-7)

図表 1-14-7 通園・通学先(障害別) <通園・通学していると回答した人>

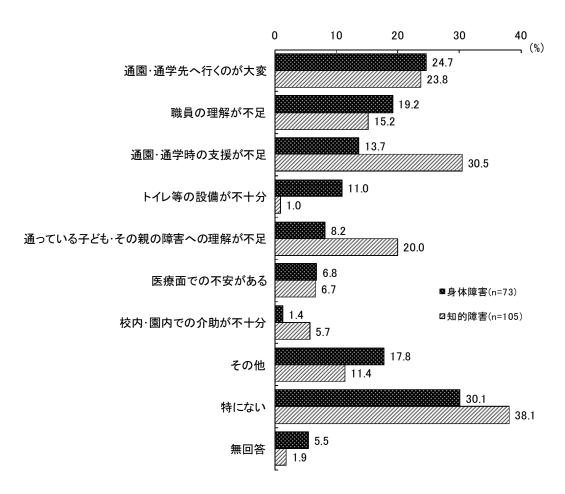


(8) 通園・通学での困りごと(問31-2)

通園・通学していると回答した人に、通園・通学する上での困りごとをたずねたところ、 身体障害者は、「通園・通学先に行くのが大変(24.7%)」が最も多く、「職員の理解が不足 (19.2%)」が続いている。「特にない」は30.1%となっている。

知的障害者は、「通園・通学時の支援が不足(30.5%)」が最も多く、「通園・通学先へ行くのが大変(23.8%)」、「通っている子ども・その親の障害への理解が不足(20.0%)」が続いている。「特にない」は38.1%となっている。(図表1-14-8)

図表 1-14-8 通園・通学での困りごと (障害別:複数回答) <通園・通学していると回答した人>

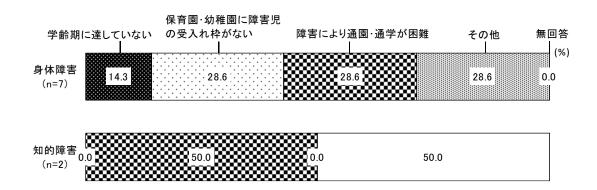


(9) 通園・通学していない理由(問31-3)

通園・通学していないと回答した人に、通園・通学していない理由をたずねたところ、身体障害者は、7人のうち「保育園・幼稚園に障害児の受入れ枠がない(28.6%)」、「障害により通園・通学が困難(28.6%)」がいずれも2人となっている。

知的障害者は、2 人のうち「障害により通園・通学が困難 (50.0%)」が1 人となっている。 (図表 1-14-9)

図表 1-14-9 通園・通学していない理由 <通園・通学していないと回答した人> (障害別)

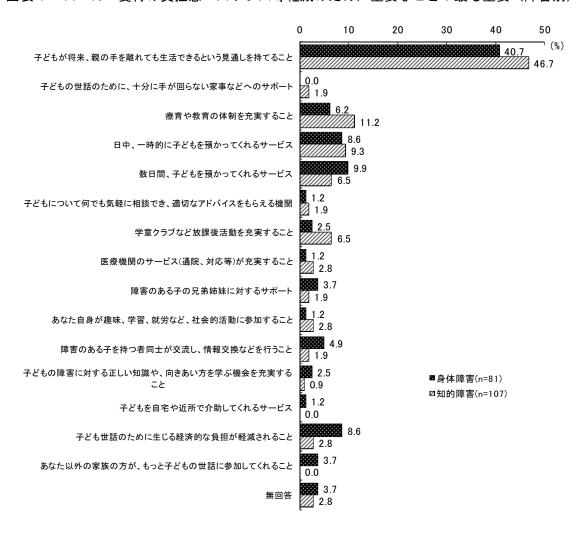


(10) 養育の負担感・ストレス等軽減のために重要なこと:最も重要(問32)

養育の負担感・ストレス等軽減のために、最も重要だと考える項目については、身体障害者は、「子どもが将来、親の手を離れても生活できるという見通しを持てること (40.7%)」が 40%を超えて最も多く、「数日間、子どもを預かってくれるサービス (9.9%)」が続いている。

知的障害者は、「子どもが将来、親の手を離れても生活できるという見通しを持てること (46.7%)」が 40%を超えて最も多く、「療育や教育の体制を充実すること (11.2%)」が続いている。 (図表 1-14-10)

図表 1-14-10 養育の負担感・ストレス等軽減のために重要なこと:最も重要(障害別)



(11)養育の負担感・ストレス等軽減のために重要なこと:最も重要から3番目に重要まで(問32)

養育の負担感・ストレス等軽減のために重要だと考える項目について、最も重要から3番目に重要までで得られた回答すべてについて合計して集計した。

身体障害者は、「子どもが将来、親の手を離れても生活できるという見通しを持てること (71.6%)」が最も多く、「子どもの世話のために、十分に手が回らない家事などへのサポート (39.5%)」、「療育や教育の体制を充実すること (29.6%)」が続いている。

知的障害者は、「子どもが将来、親の手を離れても生活できるという見通しを持てること (79.4%)」が最も多く、「療育や教育の体制を充実すること (34.6%)」、「学童クラブなど放 課後活動を充実すること (23.4%)」が続いている。 (図表 1-14-11)

図表 1-14-11 養育の負担感・ストレス等軽減のために重要なこと (障害別:最も重要から3番目に重要まで複数回答として集計)

